平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡

2021年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡

2021年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序文

京都市内には、いにしえの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地(遺跡)が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財(遺跡)は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう 努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市 考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極 的に進めているところです。

このたび、建物建築工事に伴う平安京跡・烏丸町遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました関係各位 に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

令和3年4月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 所 長 井 上 満 郎

例 言

1 遺跡名 平安京跡・烏丸町遺跡(京都市番号 19 H 742)

2 調査所在地 京都市南区東九条室町47-1、47-5、47-6

3 委 託 者 平安埋蔵文化財事務所株式会社 代表取締役 池田光繁

4 調査期間 2020年8月21日~2020年10月26日

5 調査面積 375㎡

6 調査担当者 岡田麻衣子

7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図(縮尺1:2,500)「梅小路」・「京都駅」を参

考にし、作成した。

8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系 VI (ただし、単位 (m) を省略した)

9 使用標高 T.P.: 東京湾平均海面高度

10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。

11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。

12 遺物番号 通し番号を付し、写真番号も同一とした。

13 本書作成 岡田麻衣子

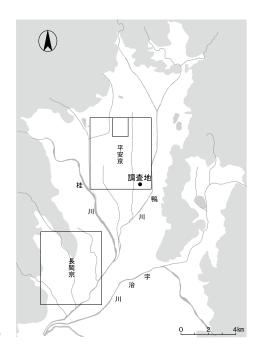
14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業

務職員があたった。

15 協力者 調査・整理に際して、下記の方々からご教示を頂いた。記して、感謝申し

上げます。

網 伸也、西山良平、浜中邦弘、吉野秋二(五十音順、敬称略)。



(調査地点図)

目 次

1.	調査経過	1
2.	位置と環境	3
	(1) 歴史的環境と立地	3
	(2) 既往の調査	4
3.	遺 構	9
	(1) 基本層序	9
	(2) 遺構の概要	9
	(3) 第3面〔平安時代中期〕の遺構	10
	(4) 第2面〔鎌倉時代前半〕の遺構	10
	(5) 第1面〔鎌倉時代後半以降〕の遺構	14
4.	遺 物	15
	(1) 遺物の概要	15
	(2) 土器類	15
	(3) 瓦類	18
	(4) 石製品	19
5.	ま と め	21
	(1)調査地における土地利用の変遷	21
	(2) 左京九条三坊八町南東部における土地利用の変遷	23

図 版 目 次

図版 1	遺構	第3面平面図(1:120)
図版2	遺構	第2面平面図(1:120)
図版3	遺構	第1面平面図(1:120)
図版4	遺構	調査区西壁・南壁断面図(1:80)
図版5	遺構	建物1・2実測図(1:50)
図版6	遺構	建物3実測図(1:50)
図版7	遺構	建物4~6実測図(1:50)
図版8	遺構	柵 1 実測図(1:50)
図版 9	潰榼	井戸1·28·29·90·170

図版10	遺構	井戸223·250·283·334、土坑242·246実測図(1:50
図版11	遺構	1 1区第3面全景 (東から)
		2 2区第3面全景 (東から)
図版12	遺構	1 1区流路224(北から)
		2 2区流路224(北西から)
図版13	遺構	1 1区第2面全景(東から)
		2 2区第2面全景(東から)
図版14	遺構	1 建物1・2 (東から)
		2 建物3北側布掘り (西から)
		3 建物3 (南から)
図版15	遺構	1 柱穴列1・2 (西から)
		2 井戸90 (南から)
		3 井戸170 (東から)
		4 井戸283 (南から)
図版16	遺構	1 溝240 (北西から)
		2 土坑群1 (東から)
		3 土坑群 2 (北から)
図版17	遺構	1 土坑124 (東から)
		2 土坑282遺物出土状況(北から)
		3 1区第1面全景 (東から)
図版 18	溃物	出十遺物

挿 図 目 次

図 1	調査位置図(1:5,000) …		1
図2	調査区配置図(1:500) …		2
図3	調査前全景(南東から)		2
図 4	作業状況(北西から)		2
図5	周辺調査位置図(1:5,000)		4
図6	基本層序図(1:30)		9
図7	柱穴列1・2実測図(1:50)	·11
図8	溝 240 断面図(1:50)		·13
図 9	土坑群1実測図(1:50) …		.13

図10	土坑124実測図(1:40)	14
図11	土坑 282 実測図 (1:20)	14
図12	流路 224 出土土器実測図(1:4)	15
図13	自然堆積層出土土器実測図(1:4)	16
図14	溝 240・土坑 282・建物 3 ・井戸 223・整地層出土土器実測図 (1 : 4)	17
図15	土器28墨書赤外線写真	18
図16	土器53墨書赤外線写真	18
図17	その他の土器実測図(1:4)	18
図18	瓦拓影及び実測図(1:4)	19
図19	石製品実測図 (1:4)	20
図20	遺構変遷図(1:300)	22
図21	調査地周辺の遺構図:平安時代(1:1,000)	24
図22	調査地周辺の遺構図:鎌倉時代前半〔Ⅰ期〕(1:500)	25
図23	調査地周辺の遺構図:鎌倉時代前半〔Ⅱ期〕(1:500)	26
図24	調査地周辺の遺構図:鎌倉時代前半〔Ⅲ期〕(1:500)	27
	表目次	
表1	周辺発掘調査一覧表	5
表2	周辺試掘・立会調査一覧表	6
表3	遺構概要表	9
表4	遺物概要表	15
	付 表 目 次	
付表1	土器観察表	29

平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡

1. 調査経過

本調査は、京都駅八条口前オフィス計画に伴う発掘調査である。

調査地は、平安京左京九条三坊八町跡の南東部及び弥生時代から古墳時代の集落遺跡である烏丸町遺跡に相当する。周辺調査では鎌倉時代を中心として、弥生時代から古墳時代の遺物を含む堆積層や平安時代の流路、平安時代から鎌倉時代の柱穴・溝・井戸・土坑、中近世の耕作溝などが検出されている。そのため、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課(以下「文化財保護課」とする)から原因者に対して発掘調査の指導が行われた。発掘調査は、原因者から委託を受けた公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が行った。調査対象面積は、文化財保護課の指導により南北15 m、東西25 mの計375 ㎡である。排土置き場を確保するため、調査区の南側を1 区、北側を2 区として反転調査を行った。

調査は2020年8月21日に開始した。調査の結果、平安時代中期の流路、鎌倉時代前半の建物・ 柱穴・柱穴列・柵・井戸・溝・土坑群・土坑、鎌倉時代後半以降の耕作溝群などを確認した。調査 中は適宜、文化財保護課による臨検と検証委員の指導を受け、図面作成・写真撮影などの記録作業 を行い、10月26日に全ての現地作業を終了した。

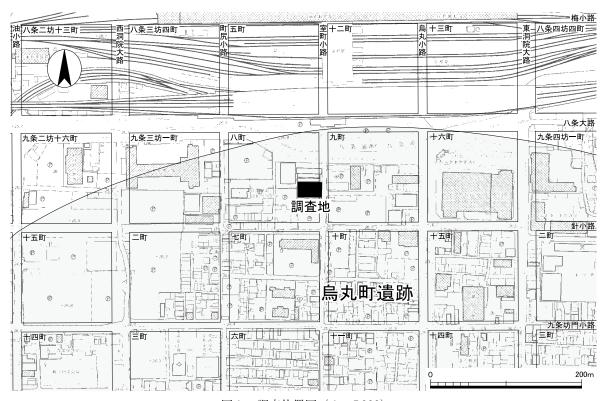


図1 調査位置図(1:5,000)

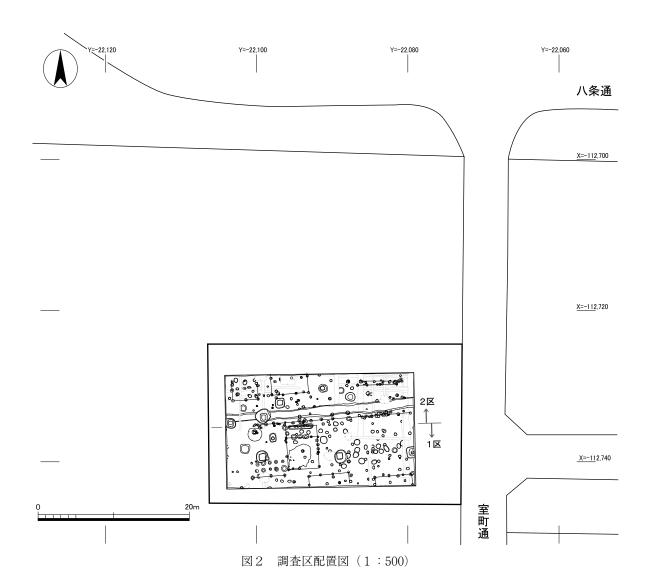






図3 調査前全景(南東から)

図4 作業状況(北西から)

註

1) 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 『京都市遺跡地図台帳【第9版】』 京都市文化 市民局 2020年

2. 位置と環境

(1) 歴史的環境と立地

調査地は京都盆地北部に位置する。京都盆地北部は、約4000~6000年前に鴨川扇状地の一部が 削平されて形成された谷に砂礫が堆積した砂礫層からなる。この砂礫層は塩小路層とよばれ、直径 5~10cm程の礫と粗砂にアカホヤ火山灰を含む。調査地周辺では、この砂礫層の上層に弥生時代か ら古墳時代の自然堆積層が堆積し、遺跡の基盤層となる。

調査地は、弥生時代から古墳時代の集落遺跡である烏丸町遺跡の北端部に位置し、平安京遷都後は、北を八条大路、南を針小路、東を室町小路、西を町尻小路に囲まれた平安京左京九条三坊八町跡の南東部に位置する。

調査地である左京九条三坊八町に直接関連する文献資料は残っていないが、周辺に存在していた施設や居住者、土地利用などについては文献資料で確認できる。以下、文献資料をもとに調査地 周辺の様相について時代別に述べる。

平安時代中期から後期 調査地の北東側にあたる左京八条三坊十三町では、承平7年(937)に 醍醐天皇の皇子である行明親王が「東八条第」で元服している(『日本紀略』承平七年二月十六日 条)。平安時代後期になるとこの地は、修理大夫藤原顕季が所有したのち(『中右記』永長元年九月 十八日条)、子の権中納言長実から鳥羽天皇の中宮である美福門院藤原得子へと引き継がれていっ た(『百錬抄』養和元年二月十七日条)。また調査地の北側にあたる左京八条三坊五町は、藤原顕隆 と子の顕能の八条町尻第や二条天皇の仮皇居、美福門院藤原得子の御所、平清盛の弟である権大納 言平頼盛の邸宅である池殿などにあたると考えられている(『百錬抄』養和元年二月十七日条)。

平安時代末期 調査地の北西側にあたる左京八条三坊四町では、康治年間(1142~1144年)に関白の藤原忠実がこの町の南西側に阿弥陀如来像を安置するために仏堂を建立している。しかしこの仏堂は仁安4年(1169)に他の場所へ移築される(『兵範記』仁安四年二月三日条)。また、永歴元年(1160)に美福門院藤原得子が亡くなると、この町の南東と北東側や調査地の東側にあたる左京九条三坊九町の北西隅の一戸主は、八条院暲子内親王領となる(『鎌倉遺文』三〇九五号)。

鎌倉時代前期 調査地の北東側にあたる左京八条三坊十二町では左大臣藤原良輔の邸宅、調査 地の南西側にあたる左京九条三坊二町では九条殿、調査地の南側にあたる左京九条三坊七町では、 詳細は不明だが「朴殿」とよばれる邸宅が所在していた(『拾芥抄』東京図)。

鎌倉時代中期 調査地の南東側にあたる左京九条三坊十町は、もともと施薬院の御倉の敷地であったが承久2年(1220)の段階では既に分割され、土地の中央には辻子が開かれていた(『九条家文書』承久二年六月十八日)。

鎌倉時代後期 鎌倉時代後期以降になると八条院暲子内親王領であった13箇所の院町が東寺に 寄進される(『鎌倉遺文』三〇九五・三〇九六・二五〇五九・二五〇六〇号)。

(2) 既往の調査

本調査地を中心とする周辺各所では、ホテルやオフィス・店舗などの新築工事に伴い、これまで 数多くの調査が行われている。以下、発掘調査から確認できる調査地周辺の様相を時代別に述べ る。

平安京遷都以前 この時期には、自然流路や平安時代の基盤層から縄文・弥生・古墳時代の遺物が出土する例(調査4・5・6・7・9・12・13・21・24・28、立8・27)が多数見受けられる。しかし、奈良時代以前の居住に関する遺構は確認されていない。

平安時代前期から中期 平安時代になると、遺構密度は低いが建物(調査3・20)や井戸(調査10・24・25)、池(調査3・10・20・21)など遺構が散見されるようになる。また、流路(調査3・11・21)や湿地(調査10)が広がっていたことが調査からわかる。

平安時代後期 この時期になると、宅地利用が増加し、条坊が整備され始め、遺構が急激に増加

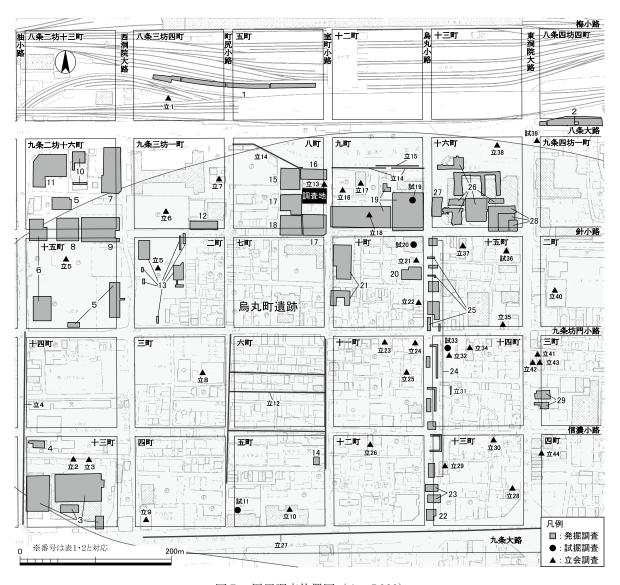


図5 周辺調査位置図(1:5,000)

表 1 周辺発掘調査一覧表

_)-hat)=	
番号	調査地点	条坊・区画関連等	宅地・整地関連等	流路・湿地・耕作 関連等	文献
1	八条三坊 四・五町	平安後期〜室町前期 の町尻小路路面・ 東西側溝	平安後期の池・建物・泉・溝・土坑・井戸・ 集石・柱列、 鎌倉の地業・建物・泉・井戸・柱列・土坑、 室町の井戸・土坑・柱穴	平安後期の湿地、 室町以降の耕作に伴 う溝	『平安京左京八条三坊四·五町跡』京都市 埋蔵文化財研究所発掘調査報告2009-7 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2009年
2	八条四坊 四・五町	平安末期〜鎌倉の 東洞院大路東側溝・ 東築地内溝、八条大 路北側溝	平安末期〜鎌倉の井戸・柱穴・土坑、 室町の井戸・柱穴・土坑	江戸の耕作土	『平安京左京八条四坊四·五町跡』京都市 埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-20 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2007年
3	九条二坊 十三町	平安の油小路東側溝、 御土居の堀	平安前〜中期の池状遺構・建物、 鎌倉の建物・井戸・土坑・溝	平安前〜中期の流路	「平安京左京九条二坊」『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1987年
4	九条二坊 十三町	御土居の堀		砂礫層から古墳の土 器	「平安京左京九条二坊十三町」『昭和55年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2011年
5	九条二坊 十五・ 十六町	平安後期の十五町北 五・六門、十六町北四 ・五門区画溝	平安後期の溝・柵・柱穴・土坑、 鎌倉〜室町の井戸・柱穴	砂礫層から弥生・古 墳の土器、近世の耕 作に伴う溝・暗渠	「平安京左京九条二坊」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994年
6	九条二坊 十五・ 十六町	御土居の堀		砂礫層から弥生・古 墳の土器、近世末以 降の耕作に伴う溝	「平安京左京九条二坊」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1995年
7	九条二坊 十六町		平安後期〜鎌倉・室町の柱穴・土坑・井戸 ・池状遺構	砂礫層から弥生・古 墳の土器、近世の耕 作溝	「平安京左京九条二坊2」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市 埋蔵文化財研究所 1995年
8	九条二坊 十五· 十六町	平安後期の十六町西 二・三行の区画溝、 針小路側溝	平安前期の掘立柱建物、 鎌倉〜室町の井戸・柱穴		「平安京左京九条二坊1」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市 埋蔵文化財研究所 1995年
9	九条二坊 十五・ 十六町	平安後期〜鎌倉の針 小路に伴う溝	平安後期〜鎌倉の土坑・柱穴・井戸	砂礫層から弥生・古墳の土器、近世以降の暗渠・溝	「平安京左京九条二坊」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年
10	九条二坊 十六町		平安前期の池・土坑、 平安末期〜鎌倉の柱穴・井戸・土坑・溝・ 溝状遺構・石積の小園池	平安前期の落込み・ 湿地、 鎌倉末期以降耕作地	「平安京左京九条二坊」『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2000年
11	九条二坊 十六町	御土居の堀	平安末期〜鎌倉前期の地業・建物・井戸・土坑、 鎌倉中〜後期の地業・柱穴列・井戸・土坑	平安前期の流路、 室町以後の耕作地化 に伴う溝	『平安京左京九条二坊十六町跡・御土居 跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報 告2014-9(公財)京都市埋蔵文化財研究 所 2015年
12	九条三坊 一町		平安後期の地業、 平安末期〜鎌倉の土器溜・井戸・土坑・柱 穴・甕倉	古墳の遺物を含む流 路	「平安京左京九条三坊一町跡」『平安京左京内5遺跡 平安京跡研究調査報告第 22輯』財團法人古代學協會 2008年
13	九条三坊 二町	平安後期の針小路 路面・南側溝	平安後期の園池・掘込・ピット、 鎌倉の井戸・柱穴・土坑	自然流路・砂礫層よ り弥生~古墳の遺物、 室町以降耕作地化	「平安京左京九条三坊」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1999年
14	九条三坊 五町			時期不明の落込み、 近世以降の耕作溝	「平安京左京九条三坊五町」『昭和54年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市 埋蔵文化財研究所 2012年
15	九条三坊 八町		平安〜鎌倉の杭列・柱穴、 鎌倉中期の建物・柱列・柵・池・土坑・井 戸、室町〜江戸の井戸	平安の溝、室町〜江戸の耕作溝	2018年6月1日~9月4日まで古代文化調査会が調査(終了報告書より)
16	九条三坊 八町		鎌倉の柵・柱穴・溝・井戸・土坑・集石・素 掘り溝	平安の流路	『平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡発掘調査報告書』文化財サービス発掘調査報告書 第12集 株式会社文化財サービス 2020年
17	九条三坊 八町	鎌倉の針小路北側溝	鎌倉の礎石建物	平安の流路	『平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2017-8(公財)京都市埋蔵文化財研究所 2018年
18	九条三坊 八町	攪乱	攪乱	攪乱	『平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡』イビソク京都市内遺跡調査報告 第23輯 株式会社イビソク関西支店 2019年
19	九条三坊 九町		平安前期〜鎌倉の建物・井戸・溝・土坑	平安前期以前の流路	『平安京左京九条三坊九町跡・鳥丸町遺跡』公益財団法人元興寺文化財研究所 2019年
20	九条三坊 十町		平安前〜中期の建物・池・溝・土坑、 鎌倉〜室町の建物・塀・井戸・溝・土坑	室町以降の耕作に伴う溝	『平安京左京九条三坊十町』古代文化調 査会 2006年

番号	調査地点	条坊·区画関連等	宅地・整地関連等	流路・湿地・耕作 関連等	文献
21	九条三坊 十町		平安前~中期の池・泉、 平安中~後期の池・土坑・柱穴、 平安末期~鎌倉中期の整地層・建物・井 戸・土坑・柱穴・柵・集石	後世包含層に混入し て弥生・古墳の土器、 平安前〜中期の流路、 室町以降の耕作溝	『平安京左京九条三坊十町跡・烏丸町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2013-15 (公財)京都市埋蔵文化財研究所 2015年
22	九条三坊 十三町	平安後期の烏丸小路 路面・東側溝、 室町後期の濠(城興 寺関係か)	近世のピット・柱穴		「九条三坊(2)」『昭和58年度 京都市埋蔵 文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財 研究所 1985年
23	九条三坊 十三町	平安後期の烏丸小路 路面・東側溝、 室町後期の濠(城興 寺関係か)	平安後期の整地層・溝、 鎌倉の井戸	平安前期の窪地	「九条三坊(1)」『昭和58年度 京都市埋蔵 文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財 研究所 1985年
24	九条三坊 十三~ 十五町	平安後期〜鎌倉前期 の烏丸小路東側溝、 室町以降の濠(城興 寺関係か)	平安前期の井戸、 平安中期の柱穴・土坑・溝、 平安後期〜鎌倉前期の土坑・井戸・溝・柱 穴	縄文土器を含む地山 砂礫層上面の小窪み、 弥生の溝、室町以降 の耕作地	「平安京左京九条三坊」『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1987年
25	九条三坊 十五町	平安後期~鎌倉前期 の烏丸小路東側溝・ 九条坊門小路北側溝	平安前期の井戸・土坑・溝、 鎌倉の土坑・ピット	室町以降耕作地化	「平安京左京九条三坊」『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1988年
26	九条三坊 十六町		平安後期〜鎌倉の井戸・建物・柵・溝	室町以降耕作地化	『平安京左京九条三坊跡 京都駅南口第一種市街地再開発事業に伴う埋蔵文化財調査概報 昭和54年度』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1980年
27	九条三坊 十六町		平安後期〜室町前期の井戸・土坑・柱穴・ 柵		「左京九条三坊」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要(発掘調査編)』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1982年
28	九条三坊 十六町		平安後期〜室町の井戸・土坑・溝・柱穴	砂礫層から縄文土器、 遺構下層で北西から 南東方向に流れる旧 河川跡	『平安京左京九条三坊跡 京都駅南口地区 第一種市街地再開発事業に伴なう埋蔵文 化財調査概報 昭和55年度』(財)京都市 埋蔵文化財研究所 1981年
29	九条四坊 三町	平安後期の東洞院大 路東築地と内側溝・ 東側溝	平安後期の井戸(東洞院大路路面上)、 平安末期〜鎌倉初期の井戸、 室町の井戸		「平安京左京九条四坊三町」『昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市 埋蔵文化財研究所 2011年

表 2 周辺試掘・立会調査一覧表

番号	条坊地点	検出遺構・出土遺物等	文 献	調査No.
立1	八条三坊四町	中世の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査報告 平成20年度』 京都市文化市民局 2009年	08-HL47
立2	九条二坊十三町	平安末期~鎌倉初期の土坑、鎌倉前期の遺物包含層、 中世の落込み	『京都市内遺跡立会調査概報 平成10年度』 京都市文化市民局 1999年	97-HL434
立3	九条二坊十三町	鎌倉の落込み・遺物包含層・南北溝	『京都市内遺跡立会調査概報 平成12年度』 京都市文化市民局 2001年	00-HL37
立4	九条二坊十三~ 十四町、油小路	平安末期~鎌倉の遺物包含層、油小路西側溝か	『京都市内遺跡立会調査概報 平成14年度』 京都市文化市民局 2003年	02-HL208
立 5	九条二坊十五町、 九条三坊二町	中世の遺物包含層、御土居の一部	『京都市内遺跡立会調査報告 平成20年度』 京都市文化市民局 2009年	07-HL14
立6	九条三坊一町	鎌倉中期の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査概報 平成15年度』 京都市文化市民局 2004年	03-HL389
立7	九条三条一町	鎌倉後期の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査報告 平成17年度』 京都市文化市民局 2006年	05-HL331
立8	九条三坊三町	古墳の遺物を含む流れ堆積	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60 年度』京都市文化観光局 1986年	84-HL316
立 9	九条三坊四町	室町の遺物包含層、時期不明の流れ堆積	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和61 年度』京都市文化観光局 1987年	86-HL207
立10	九条三坊五町	室町の東西溝	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和63 年度』京都市文化観光局 1989年	88-HL168
試11	九条三坊五町	平安の遺物を含む流れ堆積	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成 2 年度』京都市文化観光局 1991年	90-HL91
立12	九条三坊五・六町	平安末期〜室町の水田跡・水路・南北溝	「左京九条三坊」『昭和56年度 京都市埋 蔵文化財調査概要(試掘・立会調査編)』 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1983年	
立13	九条三坊八町	鎌倉・室町の遺物包含層	『京都市內遺跡立会調査概報 平成6年度』 京都市文化観光局 1995年	94-HL208

番号	条坊地点	検出遺構・出土遺物等	文 献	調査No.
立14	九条三坊八・九町	鎌倉・江戸の遺物包含層・落込み・路面	『京都市内遺跡立会調査概報 平成6年度』 京都市文化観光局 1995年	93-HL332
立15	九条三坊九町	平安後~末期の落込み、鎌倉~江戸の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査概報 平成6年度』 京都市文化観光局 1995年	93-HL380
立16	九条三坊九町	平安中期の土坑	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成 2 年度』京都市文化観光局 1991年	90-HL17
立17	九条三坊九町	鎌倉末期・室町初期の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査概報 平成14年度』 京都市文化市民局 2003年	02-HL278
立18	九条三坊九町	鎌倉前期・室町前〜後期の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査概報 平成29年度』 京都市文化市民局 2018年	00-HL213
試19	九条三坊九町	鎌倉の遺物包含層	『京都市内遺跡試掘調査概報 平成11年度』 京都市文化市民局 2000年	16-HL697
立20	九条三坊十町	室町前期の土壙墓・土坑・南北溝・柱穴	『京都市内遺跡試掘調査概報 平成11年度』 京都市文化市民局 2000年	
立21	九条三坊十町	平安中期の遺物包含層、鎌倉前~後期の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査概報 平成16年度』 京都市文化市民局 2005年	04-HL62
立22	九条三坊十町	鎌倉の土坑	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60 年度』京都市文化観光局 1986年	85-HL8
立23	九条三坊十一町	室町の遺物包含層	『京都市內遺跡詳細分布調査報告 平成30 年度』京都市文化市民局 2019年	18-HL309
立24	九条三坊十一町	鎌倉の遺物包含層、烏丸小路西側溝	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成29 年度』京都市文化市民局 2018年	17-HL045
立25	九条三坊十一町	鎌倉の遺物包含層	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60 年度』京都市文化観光局 1986年	85-HL120
立26	九条三坊十二町	平安後期の落込み・遺物包含層、室町・江戸の遺物包 含層	『京都市内遺跡立会調査概報 平成9年度』 京都市文化市民局 1998年	97-HL247
立.27	九条三坊四町~四 坊四町、九条大路	弥生の遺物包含層、室町の井戸・土坑、近世の九条大 路側溝	『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1988年	
立.28	九条三坊十三町	鎌倉~室町の土坑	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成22 年度』京都市文化市民局 2020年	18-HL106
立29	九条三坊十三町	平安後期~鎌倉の落込み・遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査概報 平成8年度』 京都市文化市民局 1997年	96-HL262
立30	九条三坊十三町	平安~室町の遺物包含層・土坑、弥生土器出土	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和57 年度』京都市文化観光局 1983年	82-HL25
立31	九条三坊十四町	室町の遺物包含層、時期不明の土坑	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和62 年度』京都市文化観光局 1988年	87-HL225
立32	九条三坊十四町	平安後期の湿地状堆積	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成22 年度』京都市文化市民局 2011年	09 - HL211
試33	九条三坊十四町	鎌倉の湿地状堆積	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和59 年度』京都市文化観光局 1985年	84-HL161
立34	九条三坊十四町	鎌倉~室町の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査概報 平成7年度』 京都市文化市民局 1996年	95-HL303
立35	九条三坊十五町	平安末期の遺物包含層	『京都市内遺跡試掘、立会調査概報 昭和 56年度』京都市文化観光局 1982年	81-HL106
試36	九条三坊十五町	中世の土坑	『京都市内遺跡試掘調査報告 平成28年度』 京都市文化市民局 2017年	15-HL630
立37	九条三坊十五町	平安後期~鎌倉の土坑、鎌倉の落込み、時期不明の柱 穴	『京都市内遺跡立会調査概報 平成12年度』 京都市文化市民局 2001年	99-HL420
立38	九条三坊十六町	平安〜室町の遺物包含層	『平安京左京八条大路跡 八条通地下横断 歩道建設に伴なう立会調査概報 昭和55年 度』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1981年	
試39	九条四坊一町	鎌倉の遺物包含層	『京都市内遺跡試掘調査報告 平成29年度』 京都市文化市民局 2018年	17-HL120
立40	九条四坊二町	室町の遺物包含層	『京都市內遺跡試掘立会調査概報 昭和61 年度』京都市文化観光局 1987年	
立.41	九条四坊三町、 東洞院大路	中世の遺物包含層	『京都市內遺跡立会調査報告 平成17年度』 京都市文化市民局 2006年	86-HL87
立42	九条四坊三町、 東洞院大路	中世の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査報告 平成20年度』 京都市文化市民局 2009年	05-HL22
立43	九条四坊三町、東洞院大路	平安後期の土坑、室町前期の遺物包含層、下層は湿地地		07-HL373
立44	九条四坊四町、 東洞院大路	鎌倉の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査概報 平成13年度』 京都市文化市民局 2002年	97-HL44

する。宅地関連の遺構は、建物・池・井戸・溝・柵・土坑・地業などが検出されている(調査1・2・5・7・9・10・11・12・13・21・23・24・26・27・28・29、立37・43)。条坊関係の遺構は、東洞院大路・八条大路(調査2・29)、町尻小路(調査1)、油小路(調査3、立4)、針小路(調査8・9・13)、烏丸小路(調査22・23・24・25)、九条坊門小路(調査25)の路面や側溝、四行八門の区画溝(調査5・8)が検出されている。

鎌倉時代 平安時代後期から継続する遺構が多数確認できる。宅地関連の遺構は、建物・井戸・溝・柵・土坑・地業などが検出されている(調査1・3・5・8・11・12・17・20・21・23・25・29、立28)。また、仏堂も確認されている(調査17)。条坊関係の遺構は、東洞院大路・八条大路(調査2)、町尻小路(調査1)、油小路(立4)、針小路(調査9)、烏丸小路(調査24・25・立24)、九条坊門小路(調査25)の路面や側溝が確認されている。

室町時代以降 一部、平安時代や鎌倉時代から継続して遺構は散見できるが、鎌倉時代以前と比較すると激減する。井戸・土坑・柱穴(調査1・2・5・8・20・29)や土壙墓(立20)などが確認されているが、周辺調査の多くで耕作溝が検出され(調査1・5・6・7・9・11・13・14・20・21・25・26、立10・20)、耕作地化していくことを確認できる。

参考文献

辻 裕司「第5章 平安京左京域南部における遺跡の展開」『平安京の地域形成』 京都大学学術出版会 2016年

山田邦和「第三章 左京と右京 左京全町の概要」『平安京提要』 角川書店 1994年

註

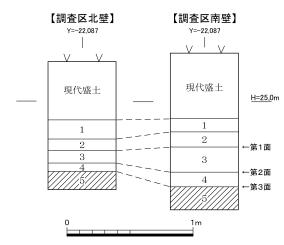
1) 横山卓雄「第二章 京都盆地の自然環境」『平安京提要』 角川書店 1994年

3. 遺 構

(1) 基本層序(図6)

調査地の現地表面の標高は25.3~25.4 mで、ほぼ平坦である。調査地の基本層序は、現地表面から順に現代盛土(厚さ0.45~0.5 m)、近世耕作土(厚さ0.1~0.15 m)、中世耕作土(厚さ0.09~0.12 m)、鎌倉時代前半の整地層(厚さ0.1~0.2 m)、鎌倉時代前半の遺物を含む自然堆積層(厚さ0.06~0.12 m)、基盤層である。鎌倉時代前半の遺物を含む自然堆積層は、調査区の北東部ほど薄くなる。

調査は鎌倉時代前半の整地層上面を第1面、 鎌倉時代前半の遺物を含む自然堆積層上面を第 2面、基盤層上面を第3面として遺構検出を 行った。



- 1 10YR4/3にぶい黄褐色 細砂(近世耕作土)
- 2 10YR4/6褐色 細砂 締まり弱い(中世耕作土)
- 3 10YR3/2黒褐色 微砂 φ2~5cm程度の礫中量混じる 土器片多量含む(鎌倉時代前半の整地層)
- 4 10YR3/1黒褐色 微砂~シルト 粘性強い 土器片少量含む(鎌倉時代前半の遺物を含む自然堆積層)
- 5 2.5Y5/3黄褐色 粗砂 φ5~10cm程度の礫が多量混じる (基盤層)

図6 基本層序図(1:30)

(2) 遺構の概要(表3)

今回の調査では、鎌倉時代前半を中心に平安時代中期から近世の遺構を427基検出した。

平安時代中期の遺構は、南北方向の流路224のみ第3面で検出した。鎌倉時代前半の主要な遺構として、建物1~6、柱穴列1・2、柵1、井戸1・28・29・90・170・223・250・283・334、溝240、土坑群1・2、土坑124・242・246・282、その他にも多数の柱穴を第2面で検出した。鎌倉時代前半、第2面で遺構数が急激に増加している。鎌倉時代後半以降の遺構は、第1面で耕作溝群を検出した。この耕作溝は鎌倉時代後半のものと近世のものがある。

以下、検出した各時期の主要な遺構について述べる。

時 代	遺構	備考
平安時代中期	流路224	
鎌倉時代前半	建物1~6、柱穴列1・2、柵1、 井戸1・28・29・90・170・223・250・283・334、溝240、 土坑群1・2、土坑124・242・246・282	
鎌倉時代後半以降	耕作溝群	

表3 遺構概要表

(3) 第3面〔平安時代中期〕の遺構(図版1・11)

流路224(図版12) 調査区の中央部で検出した南北方向の流路である。方位は北に対して西へ約19度振れる。検出長は南北15mあり、調査区外へと延長する。流路の西側の肩部は確認できたが、北部では東側の肩部を確認できなかった。幅は4m以上になると考えられる。深さは検出面から0.3~0.5m。底部の標高は北端部24.24m、中央部24.13m、南端部23.8mと北から南へ徐々に下がっていく。流路の南部分は埋土にブロックが含まれることから、人為的に埋められたことがわかる。深さは深い所で検出面から0.46mである。埋土からは平安時代中期の土器が出土した。

(4) 第2面〔鎌倉時代前半〕の遺構(図版2・13)

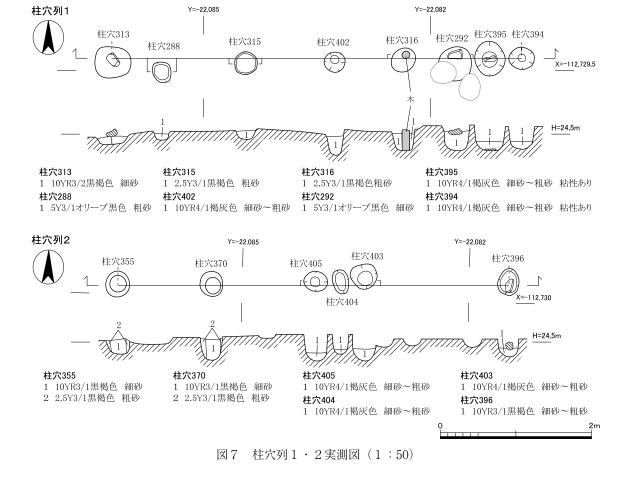
建物 1 (図版 5・14) 調査区北西部で検出した掘立柱建物である。方位は北に対して西へ約 5 度振れる。検出規模は東西 $3.4\,\mathrm{m}$ 、南北 $2.6\,\mathrm{m}$ 以上あり、北へ延長して展開すると考えられる。南側柱列は $2\,\mathrm{ll}$ で柱間は $1.6\,\mathrm{ll}$ 2 $1.6\,\mathrm{ll}$ 2 $1.6\,\mathrm{ll}$ 3 $1.6\,\mathrm{ll}$ 2 $1.6\,\mathrm{ll}$ 3 $1.6\,\mathrm{ll}$

建物2(図版5・14) 調査区北西部で検出した掘立柱建物である。方位は北に対して西へ約5度振れる。検出規模は東西4.9 m、南北2.2 m以上あり、北へ延長して展開すると考えられる。南側柱列は基本的に3間で柱間は1.4~1.85 mと推測されるが、補修あるいは建て替えが認められる。東西側柱の柱間はいずれも2.2 mである。柱穴の平面形は円形または楕円形を呈し、規模は径0.3~0.5 m、深さは検出面から0.1~0.25 mある。柱痕から推測できる柱径は0.1~0.2 mである。出土土器は小片のため、時期の特定はできないが、鎌倉時代前半とみられる。

建物3(図版6・14) 調査区中央南部で検出した建物である。方位は北に対して西へ約3度振れる。検出規模は東西4.1 m、南北5.7 mあり、柱間は $0.2 \sim 2.6$ mと不揃いである。北側柱は幅0.6 m、長さ3.3 mの溝の中に柱穴が並ぶ、いわゆる布掘りとなっている。建物の北半には土坑(土坑 $58 \sim 60$)が3基東西に並んでおり、甕の据え付け痕と推測される。またその並びに柱穴63 が認められ、ここから北側1.45 mは庇と推測される。柱穴の平面形は円形または楕円形を呈し、規模は径 $0.2 \sim 0.35$ m、深さは検出面から $0.15 \sim 0.2$ mある。柱痕から推測できる柱径は約0.2 mである。南側にはにぶい黄褐色の微砂が方形状に薄く貼られ、土間状(土間103)になっている。出土土器は小片のため、時期の特定はできないが、鎌倉時代前半とみられる。

建物4(図版7) 調査区南西部で検出した建物である。方位は北に対して西へ約5度振れる。 検出規模は東西4.3 mあり、南へ延長して展開すると考えられる。柱間は0.8~1.8 mである。柱穴 の平面形は円形または楕円形を呈し、規模は径0.2~0.25 m、深さは検出面から0.06~0.13 mある。 出土土器は小片のため、時期の特定はできないが、鎌倉時代前半とみられる。

建物5(図版7) 調査区南部で検出した掘立柱建物である。方位は北に対して西へ約5度振れる。検出規模は東西5.6m、南北1.55m以上あり、南へ延長して展開すると考えられる。北側柱列



は3間で柱間は $1.5 \sim 2.1 \,\mathrm{m}$ である。東西側柱の柱間は $1.1 \sim 1.2 \,\mathrm{m}$ である。柱穴の平面形は円形または楕円形を呈し、規模は $4.2 \sim 0.4 \,\mathrm{m}$ 、深さは検出面から $4.1 \sim 0.24 \,\mathrm{m}$ ある。柱痕から推測できる柱径は $4.1 \,\mathrm{m}$ である。出土土器は小片のため、時期の特定はできないが、鎌倉時代前半とみられる。

建物 6 (図版 7) 調査区北西部で検出した建物である。方位は北に対して西へ約 5 度振れる。 検出規模は東西 $4.9\,\mathrm{m}$ 、南北 $2.2\,\mathrm{m}$ 以上あり、北へ延長して展開すると考えられる。北側柱列は 5 間で柱間は $0.65\sim1.2\,\mathrm{m}$ である。東西側柱の柱間は $1.0\sim1.4\,\mathrm{m}$ である。柱穴の平面形は円形または楕円形を呈し、規模は径 $0.3\sim0.45\,\mathrm{m}$ 、深さは検出面から $0.1\sim0.35\,\mathrm{m}$ ある。出土土器は小片のため、時期の特定はできないが、鎌倉時代前半とみられる。

柱穴列1 (図7、図版15) 調査区北東隅部で検出した東西方向の柱穴列である。方位は正方位である。柱穴の平面形は円形または楕円形を呈し、規模は径0.25~0.5 m、深さは0.1~0.2 mである。検出長は5.4 mあり、柱間は不等間隔で0.4~1.2 mである。柱穴316に径0.15 m程の柱材が残存していた。用材樹種はヒノキである。出土土器は小片のため、時期の特定はできないが、鎌倉時代前半とみられる。北へ展開する建物の一部と考えられる。

柱穴列2(図7、図版15) 調査区北東隅部で検出した東西方向の柱穴列である。方位は東に対して北へ約2度振れる。柱穴の平面形は円形または楕円形を呈し、規模は径0.3~0.4 m、深さは0.2~0.3 mである。検出長は5.1 mあり、柱間は不等間隔で0.4~1.9 mである。出土土器は小片のため、時期の特定はできないが、鎌倉時代前半とみられる。柱穴列1と同様に北へ展開する建物の一部と

考えられる。

柵1 (図版8) 調査区中央部で検出した東西方向の柵列である。方位は東に対して北へ約5度振れる。柱穴の平面形は円形または楕円形を呈し、規模は径0.25~0.7 m、深さは0.06~0.5 mある。検出長は21 mあり、東側は調査区外へのびると考えられる。柱間は不等間隔で0.4~1.8 mと推測されるが、作り替えなどにより、柱穴が密集しており、判然としない。出土土器は小片のため、時期の特定はできないが、鎌倉時代前半とみられる。

井戸1(図版9) 調査区西側中央部で検出した井戸である。平面形は掘形と井戸枠ともに円形を呈している。検出規模は掘形が径約1.9m、枠の内径は0.7m、深さは検出面から1.1mあり、底部の標高は23.34m。径0.1~0.2mの礫がやや組み合うようにして検出できたことから石組の井戸と推測される。底部に水溜は確認できなかった。埋土から鎌倉時代前半の土器が出土し、混入して古墳時代の須恵器杯身も出土している。

井戸28 (図版9) 調査区西側中央部で検出した井戸である。平面形は掘形が隅丸方形を呈する。井戸枠は残存していないが、埋土の状況から井戸と判断した。検出規模は南北1.2m、東西1.2m、深さは検出面から0.7mあり、底部の標高は23.7m。底部に水溜は確認できなかった。埋土から鎌倉時代前半の遺物が出土した。

井戸29(図版9) 調査区西側中央部で検出した井戸である。平面形は掘形が隅丸方形を呈する。井戸枠は残存していないが、埋土の状況から井戸と判断した。検出規模は掘形が南北1.2m、東西0.85m、深さは検出面から0.34mあり、底部の標高は24.16m。底部には円形の水溜が掘り込まれる。出土土器は小片のため、時期の特定はできないが、鎌倉時代前半とみられる。

井戸90 (図版9・15) 調査区南部中央で検出した井戸である。平面形は掘形が円形、井戸枠は 方形を呈する。枠材の部材はほぼ不朽してしまっているが、わずかに残る痕跡から縦板を用いられ た様子が観察できる。用材樹種はスギである。検出規模は掘形が径1.7 m、井戸枠が南北0.9 m、東 西0.8 m、深さは検出面から0.6 mあり、底部の標高は23.7 m。底部に水溜は確認できなかった。埋 土から鎌倉時代前半の土器が出土した。

井戸170 (図版9・15) 調査区南西部で検出した板組井戸である。平面形は掘形が円形、井戸枠は方形を呈する。枠材の部材はほぼ不朽してしまっているが、わずかに残る痕跡から縦板を用いられた様子が観察できる。用材樹種はスギである。検出規模は掘形が径1.5 m、井戸枠が南北0.95 m、東西1.0 m、深さは検出面から0.7 mあり、底部の標高は23.54 m。底部に水溜は確認できなかった。埋土から鎌倉時代前半の土器が出土した。

井戸223 (図版10) 調査区東端部で検出した井戸である。検出規模は掘形が南北1.0 m以上、東西1.5 m、深さは検出面から0.9 mあり、底部の標高は23.7 m。井戸枠には下半中央部に円形の曲物状のものを使用していたと考えられるが、検出できなかった。埋土から鎌倉時代前半の土器が出土した。

井戸250 (図版10) 調査区北西部で検出した井戸である。平面形は掘形と井戸枠ともに方形を呈する。井戸枠材は残存していないが、埋土の違いから掘形と井戸枠か区別できる。検出規模は掘

形が南北1.3 m、東西1.25 m、井戸枠が南北0.7 m、東西0.75 m、深さは検出面から0.7 mあり、底部の標高は23.75 m。底部に水溜は確認できなかった。埋土から鎌倉時代前半の土器が出土した。

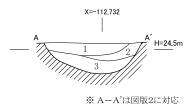
井戸283 (図版10・15) 調査区北部で検出した井戸である。平面形は掘形と井戸枠ともに円形を呈する。井戸枠は残存していないが、埋土の違いから掘形と井戸枠か区別できる。検出規模は掘形が径1.3 m、井戸枠が径0.7 m、深さは検出面から0.8 mあり、底部の標高は23.81 m。底部に水溜は確認できなかった。埋土から鎌倉時代前半の土器が出土した。

井戸334(図版10) 調査区北部中央で検出した井戸である。平面形は掘形が円形を呈し、井戸枠は円形、井戸枠材は残存していない。検出規模は掘形が径1.2m、井戸枠が径0.6m、深さは検出面から0.8mあり、底部の標高は23.7m。底部には円形の水溜が掘り込まれる。埋土から鎌倉時代前半の土器が出土した。

溝240 (図8、図版16) 調査区の中央部で検出した東西方向の溝である。方位は東に対して北へ約5度振れる。検出長は25mあり、調査区外へと延長する。幅は約1.5mである。深さは検出面

から約0.4 m。底部の標高は東端部24.32 m、中央部24.25 m、西端部24.19 mと緩やかに東から西へ下がっている。 埋土から平安時代後期の瓦と鎌倉時代前半の土器が出土 した。

土坑群1 (図9、図版16) 調査区南西部で検出した。 平面形は円形または楕円形を呈し、5基ずつ東西方向に2 列並ぶ。検出規模は南北1.5m、東西4.0m、径0.35~0.8 m、深さは検出面から0.16~0.3mである。土坑51の埋土 からは網籠のような有機物が出土した。出土土器は小片の



※ A−A は図版2に対応

- 1 10YR2/3黒褐色 細砂~粗砂
- 2 10YR2/3黒褐色 細砂~粗砂
- +10YR3/2黒褐色 粗砂ブロック混じる 3 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性強い
- o formy of each of page 1991 Allessay



図8 溝240断面図(1:50)

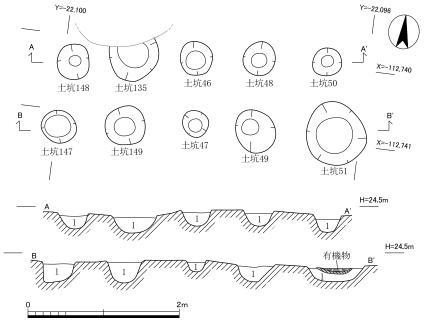


図9 土坑群1実測図(1:50)

A-A' **土坑148**1 10YR3/1黒褐色 微砂~細砂 **土坑135**1 10YR2/2黒褐色 微砂~細砂

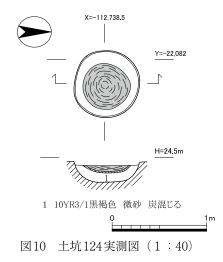
- 土坑46
- 1 10YR2/1黒色 炭混じる 土坑48
- 1 10YR3/2黒褐色 微砂 土坑50
- 1 10YR4/2灰黄褐色 細砂~粗砂

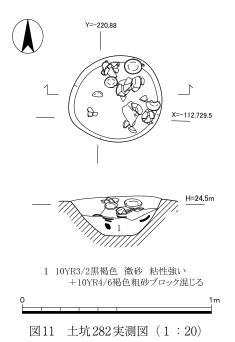
B-B' **土坑147**

- 土坑147 1 10YR3/2黒褐色 微砂~細砂 土坑149
- 1 10YR3/2黒褐色 微砂~細砂 土坑47
- 1 10YR2/1黒色 炭混じる
- 土坑49
- 1 10YR2/2黒褐色 細砂〜粗砂 炭混じる

土坑51

1 10YR2/2黒褐色 細砂〜粗砂 炭混じる





ため、時期の特定はできないが、鎌倉時代前半とみられる。 甕据え穴の可能性が考えられる。

土坑群2(図版16) 調査区南東部で検出した。散布して14基確認した。平面形はそれぞれ円形または楕円形を呈し、深さは検出面から0.25~0.3 mである。出土土器は小片のため、時期の特定はできないが、鎌倉時代前半とみられる。甕据え穴の可能性が考えられる。

土坑124(図10、図版17) 調査区中央西端部で検出した。先述した土坑群2の1基であり、平面形は円形を呈した土坑である。検出規模は直径0.7 m、深さは検出面から0.2 mである。埋土からは網籠のような有機物が出土した。出土土器は小片のため、時期の特定はできないが、鎌倉時代前半とみられる。

土坑242 (図版10) 調査区西端部で検出した土坑である。平面形は掘形が不定形な円形を呈し、井戸枠は方形である。検出規模は掘形が南北1.2 m以上、東西1.3 m、井戸枠は南北0.7 m、東西0.95 m、深さは検出面から0.4 mであり、底部の標高は24.0 m。底部に水溜は確認できなかった。埋土から鎌倉時代前半の土器が出土した。

土坑246 (図版10) 調査区西部で検出した井戸である。平面形は掘形が円形を呈し、井戸枠は方形、井戸枠材は残存していない。検出規模は掘形が径2.0 m、井戸枠が南北1.0 m、東西0.9 m、深さは検出面から0.5 mあり、底部

の標高は23.94m。底部は円形の水溜が掘り込まれる。埋土から鎌倉時代前半の土器が出土した。

土坑282 (図11、図版17) 調査区中央北端部で検出した。平面形は円形を呈する。検出規模は南北0.45 m、東西0.5 m、深さは検出面から0.2 mである。埋土からは鎌倉時代前半の土器や石製品が出土した。

(5) 第1面〔鎌倉時代後半以降〕の遺構(図版3・17)

耕作溝群 調査区の全域で検出した南北・東西方向にほぼ正方位の耕作溝である。検出規模は、幅0.2~1.0 m、検出長は2~25 mあり、それぞれ調査区外へとのびる。深さは検出面から約0.3 mである。溝底の高低差はほとんど認められない。これらの耕作溝には、中世以降のものと近世以降に掘られたものがある。中世以降の耕作溝には鎌倉時代前半の遺物、近世以降の耕作溝には近世の陶磁器が含まれる。

4. 遺 物

(1)遺物の概要(表4)

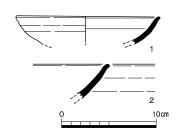
遺物は、遺物整理コンテナにして40箱出土した。出土遺物には、土師器・須恵器・緑釉陶器・白色土器・瓦器・輸入陶磁器・瓦・木製品・石製品・金属製品などがある。そのうち9割以上を土器類が占め、その他は少ない。遺物の帰属時期は、鎌倉時代前半のものを中心に古墳時代、平安時代中期から鎌倉時代前半、近世のものがある。

以下、出土した各時期の主要な遺物について概説する。

なお、土師器皿の分類と出土遺物の時期については平尾政幸氏の編年案、輸入陶磁器の分類については『太宰府条坊跡 XV』に準ずる。個別詳細については、付表1にまとめた。

(2) 土器類

流路224出土土器(図12 1・2) 土師器、緑釉陶器が出土 した。1は土師器皿である。口縁端部は丸みをおびながら外反す る。調整は口縁部がヨコナデ。体部は内面をナデ、外面をオサ エ。4A段階に属する。2は緑釉陶器椀である。口縁端部は丸み をおびながら外反する。



自然堆積層出土土器(図13 3~13) 土師器、白色土器、瓦器、輸入陶磁器が出土した。3~8は土師器皿である。口縁端部

図12 流路224出土土器実測図 (1:4)

は丸みをおびながら上部に突出する。調整は口縁部がヨコナデ。体部は内面がナデ、外面がオサエ。5B段階に属する。9は瓦器皿である。口縁端部は丸みをおびながら上部に突出する。調整は口縁部がヨコナデ。体部は内面がナデのちミガキ、外面がオサエ。10は白色土器小椀である。口縁

時 代	内 容	コンテナ 箱数	Aランク点数	Bランク 箱数	Cランク 箱数
古墳時代	須恵器				
平安時代中期	土師器、緑釉陶器、瓦		土師器1点、緑釉陶器1点		
平安時代後期	瓦		軒丸瓦1点、軒平瓦3点		
鎌倉時代前半	土師器、須恵器、白色土器、 瓦器、輸入陶磁器、木製品、 石製品、金属製品		土師器33点、須恵器2点、白色 土器2点、瓦器5点、輸入陶磁 器9点、石製品4点		
近世	陶磁器、瓦				
合 計		43箱	61点(4箱)	0箱	39箱

表 4 遺物概要表

[※] コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より3箱多くなっている。

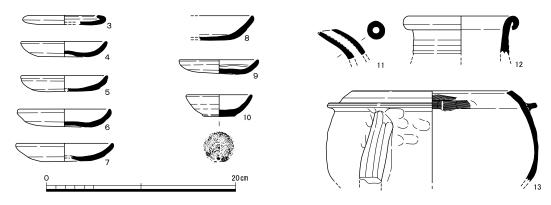


図13 自然堆積層出土土器実測図(1:4)

端部は丸みをおびながらやや内湾する。調整は口縁部・体部ともに内外面を回転ナデ、高台は糸切。11・12は輸入陶磁器である。11は青磁水注の注口である。12は白磁の水注または四耳壷の口縁部である。口縁端部は丸みをおび、鋭く屈折して玉縁に収まる。13は瓦器羽釜である。口縁端部は方形を呈し、内湾する。口縁部下に短い鍔、体部外面には足が三足付く。調整は口縁部が内面をヨコナデしたのちヨコハケ、外面をヨコナデ。体部は内面をナデ、外面はオサエ。

講240出土土器(図14 14~23) 土師器、瓦器、輸入陶磁器が出土している。14~19は土師器皿である。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は丸く収まる。調整は口縁部がヨコナデ。体部は内面がナデ、外面がオサエ。6A段階に属する。20は瓦器皿である。口縁端部は丸みをおびながら内湾する。調整は口縁部がヨコナデのちミガキ。体部は内面をナデ、外面をオサエ。見込みには暗文を施す。21は瓦器椀である。体部は外反気味に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。高台は断面形が三角形を呈した貼り付け高台である。調整は口縁部をヨコナデ、内面をナデのちミガキ、体部をオサエ。見込みには暗文を施す。樟葉型。22・23は輸入陶磁器である。22は白磁椀である。椀V類である。高台は高く、断面形は逆三角形に削り出す。高台に煤が付着している。23は青磁皿である。皿 I-2a類である。高台は削り出し、体部の中位から緩やかに立ち上がり、口縁部にかけて緩やかに外反する。器厚は薄く、底部内面は無文である。同安窯系。

土坑282出土土器(図14 24~27) 土師器、石製品などが出土した。24~27は土師器皿である。口縁部は丸みをおびながら内湾気味に立ち上がり、端部に至る。調整は口縁部がヨコナデ。体部は内面がナデ、外面がオサエ。6B段階に属する。

建物3出土土器(図14・15 28) 28は輸入陶磁器の白磁四耳壷である。壷Ⅲ類である。肩部は緩やかに張り出し丸みをおびる。体部は底部にいくほどすぼまり、倒卵形を呈する。肩部には4つの線刻の耳をもつ。高台は削り出し、端部をヘラにより面取りする。高台内面に墨書が記されるが、解読できない(図15)。

井戸223出土土器(図14、図版18 29~34) 土師器、須恵器、輸入陶磁器などが出土した。29・30は土師器皿である。口縁端部は上部につまみあげる。調整は口縁部がヨコナデ。体部は内面がナデ、外面がオサエ。31~33は輸入陶磁器である。31は青磁椀である。口縁端部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。32は青磁皿である。高台は削り出し、体部の中位から屈折し、口縁部に

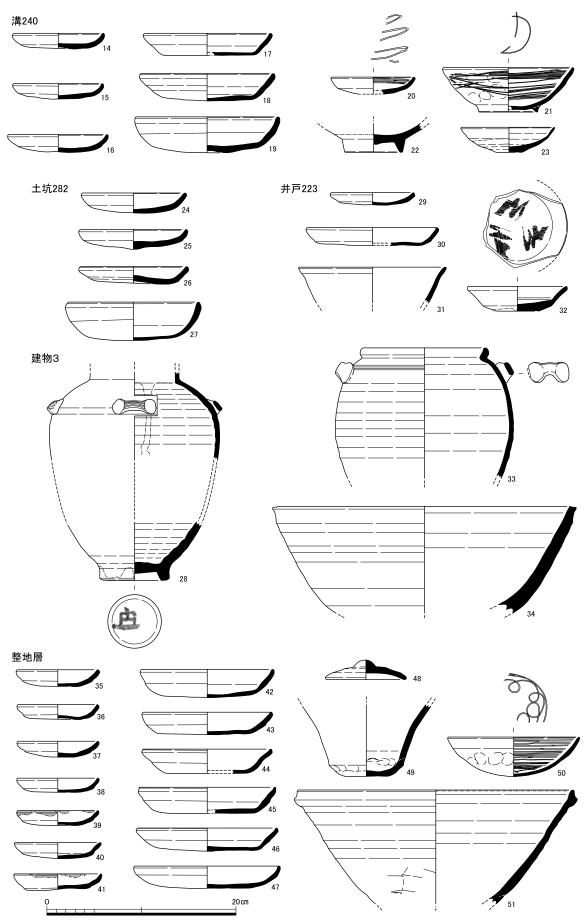


図14 溝240・土坑282・建物3・井戸223・整地層出土土器実測図(1:4)







図16 土器53墨書赤外線写真

かけて緩やかに外反する。器厚は厚く、見込みには櫛目を施す。同安窯系か。33は灰釉陶器の双耳 壷である。口縁部は屈折し、口縁端部は丸みをおびながら内湾する。体部は丸みをおび、肩部には 2つの耳が付く。調整は内外面ともに回転ナデ。34は須恵器鉢である。口縁端部は平たく、外側へ 突出する。調整は口縁端部・内面を回転ナデ、体部外面をケズリ。

整地層出土土器(図14、図版18 35~51) 整地層(図6の3層)より土師器、須恵器、白色土器、瓦器などが出土した。35~47は土師器皿である。口縁端部は丸みをおびる。調整は口縁部がヨコナデ。体部は内面がナデ、外面がオサエ。土師器皿の帰属時期は6A~6C段階まである。48は白色土器蓋である。口縁端部は丸みをおびる。口縁部から体部は回転ナデ、ツマミは貼り付けである。49は土師器鉢である。底は丸みをおび、体部は外反しながら外へ広がる。調整は底部外面がナデ、内面をオサエ。体部は内外面ともにナデ、粘土紐を積み上げられた痕跡が残る。50は瓦器椀である。口縁部端部は上部に丸みをおび、内面しながらやや折り曲げる。体部から底部は丸みをおびる。調整は口縁部をヨコナデ。体部内面をナデのちミガキ、外面をオサエ。底部外面をナデ、内面底部に暗文が施される。樟葉型。51は須恵器鉢である。調整は口縁部をヨコナデ。体部内外面を回転ナデ、底部付近をケズリ。東播系。

その他の土器 (図16・17、図版18 52・53) 52は建物 2 柱穴258から出土した土師器皿片である。調整は内面をナデ、 外面をオサエ。内外面ともに墨書が施される。

53は鎌倉時代の自然堆積層に混入して出土した輸入陶磁器の白磁皿である。皿Ⅲ類である。口縁部はゆるやかに外反し、高台は輪高台で削り出し、内面底部は釉薬を輪状に掻き取る。高台には「平」の墨書がある。

建物2柱穴258 自然堆積層

図17 その他の土器実測図(1:4)

(3) 瓦類(図18、図版18)

瓦類は軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦などが出土している。

瓦1は蓮華文軒丸瓦である。複弁8弁、種子は1+6と考えられる。凸中房で圏線、蓮弁に輪郭線がある。弁の間は楔形。周縁は素弁直立縁。調整は瓦当側面をタテナデ、裏面に丸瓦をナデて成

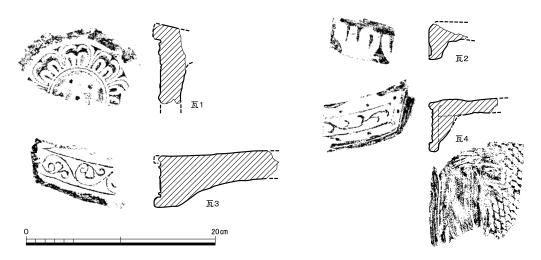


図18 瓦拓影及び実測図(1:4)

形している。暗灰色を呈し、胎土は密、焼成は良好である。時期は平安時代後期。大和産。溝240から出土した。同文の瓦は興福寺跡、薬師寺跡、円勝寺跡、成勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡から出土している。

瓦2は剣頭文軒平瓦である。調整は瓦当側面上部はヨコケズリで面取り。瓦当側面下部から顎部にかけてナデ、折り曲げじわがある。平瓦部凹面に布目。成形は折り曲げ技法。灰白色を呈し、胎土は密、焼成は良好である。時期は平安時代後期。山城産。溝240から出土した。

瓦3は唐草文軒平瓦である。調整は瓦当上部から平瓦凹面に布目、顎部から平瓦凸面にかけてナデ。暗灰色を呈し、胎土は密、焼成は良好である。全体に二次的な被熱を受ける。時期は平安時代後期。大和産。柵1の柱穴361から出土した。

瓦4は唐草文軒平瓦である。平瓦部を瓦当に差し込み、瓦当上部と顎に粘土を貼り付ける。そのため調整は、貼り付けている瓦当上部と顎はナデ。平瓦部は凹面に布目、凸面に格子叩き。灰色を呈し、胎土は密、焼成は良好である。凹面の一部が二次的な被熱を受けている。時期は平安時代後期。播磨産。溝240から出土した。

(4) 石製品(図19、図版18)

石製品は硯、温石、石鍋などが出土した。

石1は硯である。用材は変成岩系。鎌倉時代の自然堆積層から出土した。

石2は温石である。用材は滑石、石鍋の転用品である。小口端部から約2cmの位置に1孔が穿かれる。井戸223から出土した。

石3は石鍋である。用材は滑石。口縁端部は平坦、体部は下部へいくほど薄く仕上げる。口縁下部には三角形を呈した鍔が付く。調整は口縁部と内面を研磨。土坑282から出土した。

石4は石鍋である。用材は滑石。口縁端部は平坦、体部は下部へいくほど薄く仕上げる。口縁下部には断面が三角形を呈した鍔が付く。調整は口縁部と内面を研磨。体部下部を切り落としている。転用品か。内面には一部朱が付着する。土坑282から出土した。

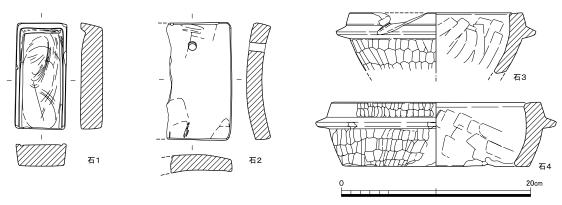


図19 石製品実測図(1:4)

註

1) 平尾政幸「土師器再考」『洛史 研究紀要』第12号 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2019年

78	50年		84	840年 930年		930年 1020			20年		11	10年	手 1170年			12	260年 13			50年	F 1410年			1500年				1590年			80年	17	40年	180	00年	186	60年	
		1		2 3 4		4		5		6			7			8		9			10			11			12		13		14							
	Α	В	С	А	В	С	Α	В	С	Α	В	С	Α	В	А	В	С	Α	В	С	Α	В	А	В	С	Α	В	С	Α	В	С	Α	В	Α	В	А	В	

- 2) 山本信夫 『太宰府条坊跡 XV―陶磁器分類編―』 大宰府市の文化財第49集 大宰府市教育委員会 2000年
- 3) 薮中五百樹「平安時代における興福寺の造営と瓦」 『佛教芸術 第194号』 毎日新聞社 1991年 山崎信二「瓦塼」 『薬師寺発掘調査報告書』 奈良国立文化財研究所学報第45冊 奈良国立文化財研究 所 1897年

柏田有香·上村和直 『円勝寺跡·成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡』 京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告書 2017-15 2018年

5. まとめ

本調査地は、平安京左京九条三坊八町跡の南東部に位置する。調査の結果、鎌倉時代前半を中心に平安時代中期から近世までの遺構を検出した。平安時代中期の遺構は流路、鎌倉時代前半の遺構は建物・柱穴・柱穴列・柵・井戸・溝・土坑群・土坑、鎌倉時代後半以降の遺構は耕作溝群などを確認でき、本調査地における土地利用の変遷を明らかにすることができた。また本調査地を中心とする周辺各所では、ホテルやオフィス、店舗などの新築工事に伴い、数多くの調査が行われている。特に今回の調査と調査15~17で実施された調査成果を含めると調査地周辺における土地利用の変遷が徐々に明らかとなってきた。

以下、本調査地における土地利用の変遷とこれまで実施された調査と本調査成果を基に調査地 周辺における土地利用の変遷について述べる。

(1)調査地における土地利用の変遷(図20)

平安時代 この時期の遺構には流路224がある。この流路の方位は、真北から西へ約19度振れている。埋土の状況や出土遺物から平安時代中期頃に埋め立てられたと考えられる。この流路以外に平安時代の建物や井戸などの居住に関する遺構は確認できなかった。そのため、この地では平安時代を通して活発な土地利用がなかったと考えられる。

鎌倉時代前半 この頃になると、遺構数が急激に増加する。遺構の検出状況などからA・B期2 時期に分けられる。

A期の遺構は、建物3、井戸1・29、溝240、土坑群1・2を確認した。調査区中央を東西方向にはしる溝240は、西四行北五門と北六門の境付近に位置し、境界を示す溝と考えられる。この溝の南側には建物3、土坑群1・2がある。建物3は北側柱列が布掘り構造をもち、建物内北側には甕を据えるためと考えられる土坑が並び、南側は粘土張りの土間となっている。このことから一般の住居ではなく、何かしらの工房跡と推測される。また土坑群1は建物3の南西隅に配置されていることから建物3に付随する甕据え穴の可能性がある。さらに建物の東側にも同じく甕据え穴とみられる土坑群2がある。この一帯に何らかの工房が展開していたことが想定できる。

B期では、建物1・2・4~6、柱穴列1・2、柵1、井戸90・170・223・334を確認した。

西四行北五門と北六門の境界溝と考えられる溝240を踏襲して同位置に柵1が配置される。この柵1を境に北側の五門域では、建物1・2、柱穴列1・2の南側柱列をそろえて東西に並ぶ。一方南側の六門域では、建物4・5・6の北側柱列をそろえて東西に並ぶ。さらにそれぞれ建物の北側または南側に揃えて井戸が配置されている。調査21では、今回の調査と同様に小規模な建物に附随して井戸が室町小路に面して建ち並ぶ状況が認められる。一方、今回の調査における建物群は室町小路に面していないことから、東西方向の辻子が設けられていたと推測される。

また以上述べた遺構は、全て真北から西へ振れている。これは下層に認められる流路等の地形の 影響を受けているものと考えられる。

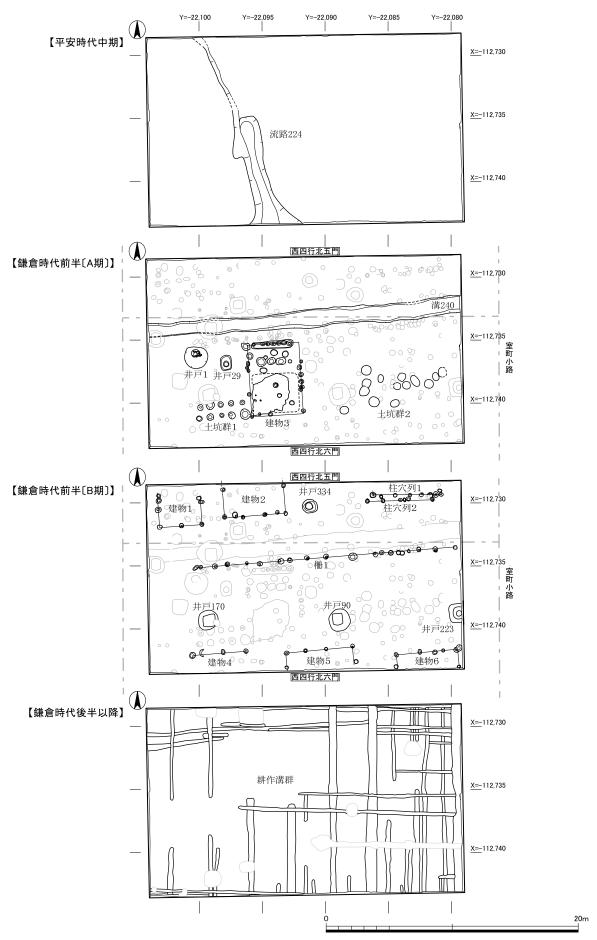


図20 遺構変遷図(1:300)

鎌倉時代後半以降 建物や柵、井戸など居住に関する遺構は廃絶する。調査区全体に東西・南北 方向の耕作溝が広がることから、この時期から耕作地化が進むことがわかる。調査区の壁断面の観 察や出土遺物に検討を行い、近世まで耕作地として利用されていたことが確認できた。

(2) 左京九条三坊八町南東部における土地利用の変遷

平安時代(図21)

調査地周辺には平安時代の流路が認められる。この流路は北から調査16の流路179・280、調査15の溝170、今回の調査で検出した流路224、調査17の流路247・828、調査19のSD1750、調査21の流路1158へと北西から南東へ流れていたと推定できる。これらの流路は平安時代中期頃には埋め立てられたり、調査15の溝170や調査17の流路848では一部造り替えも確認されている。また、調査17の流路848から調査21の流路1158が条坊推定ラインをまたいで復元できることや調査17では針小路上に素掘り溝群が検出されていることからこの時期に条坊は施行されていなかったこと推測される。

平安時代末頃になると、調査21の九条三坊十町では室町小路に沿って建物が展開していき、調査19の九条三坊九町においても建物や井戸などが見受けられ、土地の利用が徐々に土地利用が始まっていく。一方、八町内においては、流路が埋め立てられた後も明確な遺構は検出されておらず、土地利用は低調のままである。

鎌倉時代前半 (図22~24)

この頃の遺構は、建物や井戸、柵、溝、道路などが数多く検出されており、土地利用が活発化したことがうかがえる。しかし、平安時代中期に埋められた流路の存在や井戸の底面の標高が高いことなどから、調査地の地盤は軟弱で居住には不向きな場所であったと考えられる。そのためこの時期になると、各所で短い間隔で $1\sim3$ 回ほどの整地や礎石や土間、地業などの地盤沈下防止の様々な工夫や建物や柵の造り替えが多々見受けられる。

八町跡南東部におけるこの時期の遺構は、遺構の重複関係などから3時期(I~Ⅲ期)に分けることができる。ただし出土遺物にはほとんど時期差はない。

I期(図22) この段階の遺構には、調査15で溝140、調査16で溝237、柵247・285~287、調査17で井戸700・801・883などが確認されており、宅地としての利用が始まったことがうかがえる。調査16では、四行八門推定ライン付近で柵247・285~287の4条の柵が確認されており、この段階から平安京の土地制度を踏襲した区画が施行されたと考えられる。

Ⅲ期(図23) この段階の遺構には、調査15で建物2、井戸156、調査16で井戸151・152・176・200、土坑171・175・188~190・199、溝205、今回の調査地で建物3、溝240、井戸1・29、土坑群1・2、調査17で建物4、柵4・5、地業782、溝593a、道路640などがある。Ⅰ期と比べて建物や井戸などの遺構が増加する。この時期に軟弱な地盤の上に大掛りな整地や地業、針小路の整備などが行われ、急激に宅地としての利用が進むことがうかがえる。

この時期の特筆すべき遺構として、調査17で確認された建物4がある。建物4は、地業を伴う南

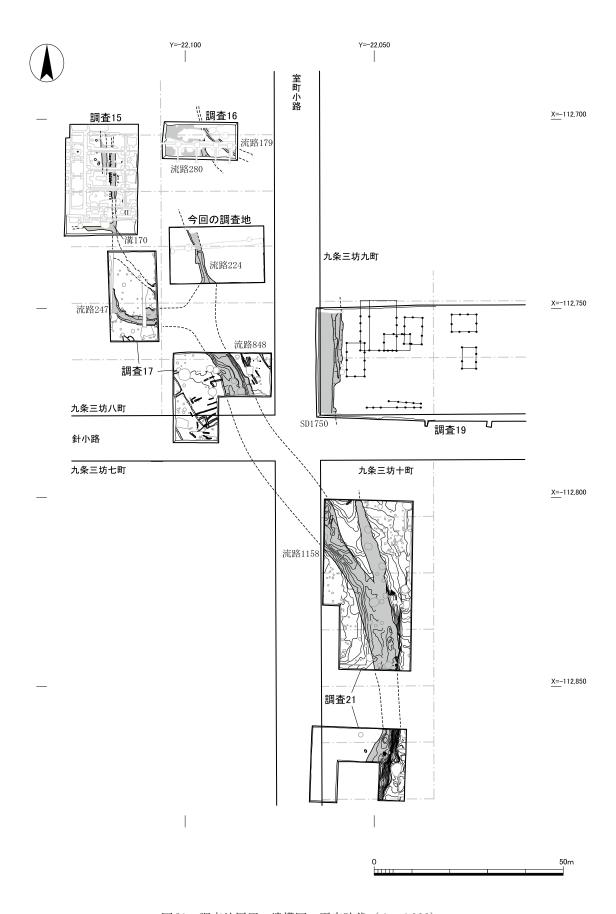


図21 調査地周辺の遺構図:平安時代(1:1,000)

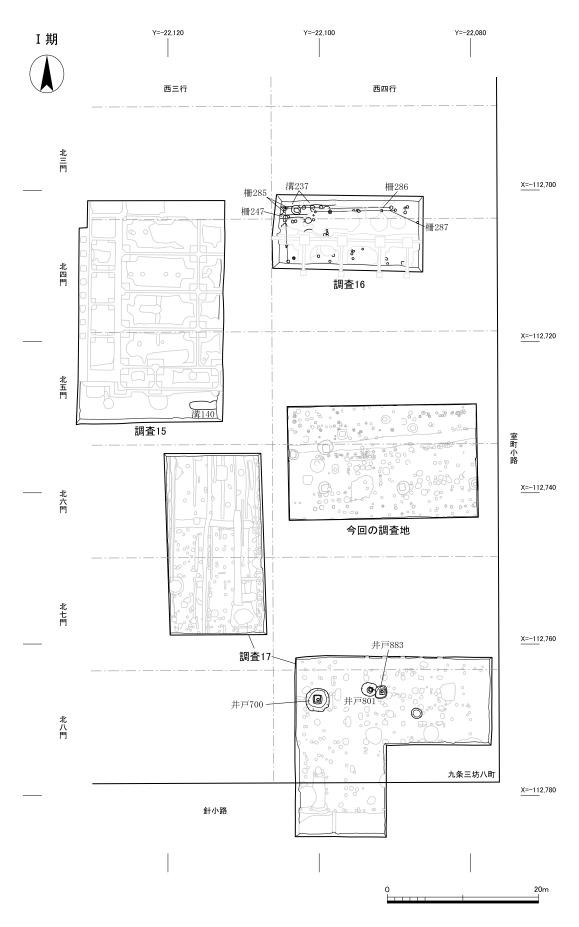


図22 調査地周辺の遺構図:鎌倉時代前半 [Ⅰ期] (1:500)

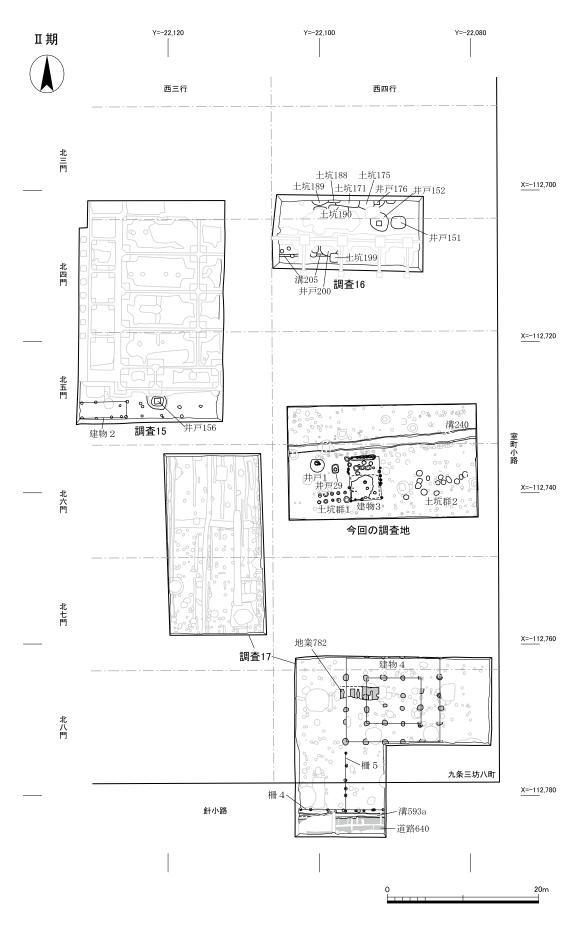


図23 調査地周辺の遺構図:鎌倉時代前半〔Ⅱ期〕(1:500)

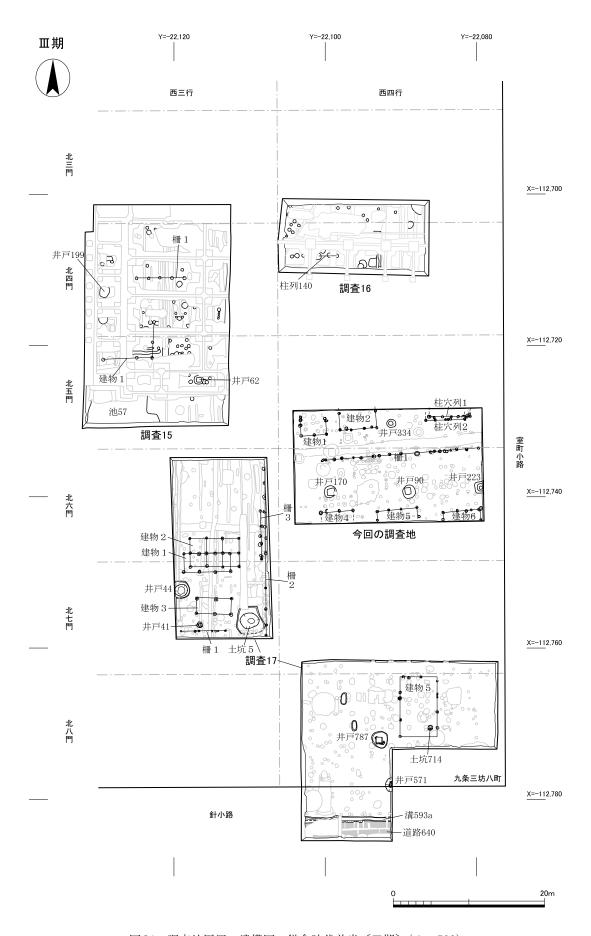


図24 調査地周辺の遺構図:鎌倉時代前半〔Ⅲ期〕(1:500)

北5間(11m)、東西5間(12.5m)の大規模な礎石建物であり、南北3間(6m)、東西3間(7.2m)の身舎の周囲に1間分(2.4~2.6m)の庇が付く。文献資料から調査地周辺では宅地内に持仏堂を建てていた記述があることなどから、持仏堂の可能性が指摘されている。この建物4と柵4・5は正方位である。対して今回の調査地で確認した建物3や溝240の方位は西へ振れており、これらは同じ宅地内のものではないことが考えられる。従って調査17の建物4のある宅地は、西四行北七門と北八門で二戸主分の土地区分だったことが推測される。また調査16では、吉州窯産天目茶椀や青白磁托が出土し、経済力を持った有力者の存在が想定されることから、小規模な区割りの宅地利用は考えにくいことも指摘されている。しかし現時点では宅地利用について考察するのは難しい。今後の調査によって利用状況を示す調査成果の増加が望まれる。

Ⅲ期(図24) この段階の遺構には、調査15の柵1、井戸62・199、建物1、池57、調査16の柱列140、調査17の建物1・2・3・5、柵1~3、井戸41・44・571・787、土坑5・714、溝593a、道路640、今回の調査地の建物1・2、4~6、柱穴列1・2、柵1、井戸90・170・223・334などがある。この時期になると、調査15の建物1、柵1、調査17の建物1・2、柵1のように四行八門を踏襲した区画を無視して建物が建てられ、区画の中心に柵が設けられている。また調査15の井戸199、調査17の井戸41・44・787、今回の調査地の井戸90・170・223・334のように小規模な建物に付随して井戸が設置されるようになる。徐々に四行八門を踏襲したの区画が崩壊していき、一戸主よりもさらに細分化された土地利用へと変化していき、町屋建物の前身となっていくと考えられる。

鎌倉時代後半以降

この時期になると八町跡南東部では、建物や柵、井戸など居住に関する遺構が著しく減少する。 そして条坊や四行八門の区割りを無視して東西・南北方向の耕作溝が広がる。しかし、十町跡南西部である調査19に関しては、室町時代になっても一部土地利用が継続している。

以上、本調査地における土地利用の変遷とこれまで実施された調査と本調査成果を基に調査地 周辺における土地利用の変遷について述べた。

近年開発に伴い、調査地周辺の調査が増加し、土地利用の変遷について考察する上でデータが蓄積されてきた。今回の調査成果も平安京左京域南部における遺跡の展開について考察していく上で貴重な調査成果となるだろう。

註

1) 2018年6月1日~9月4日まで古代文化調査会によって実施された調査15の調査成果については、 文化財保護課より提供の終了報告書と調査16の考察(大西晃靖『平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町 遺跡跡発掘調査報告書』文化財サービス発掘調査報告書 第12集 株式会社 文化財サービス 2020 年)を基に作成した。

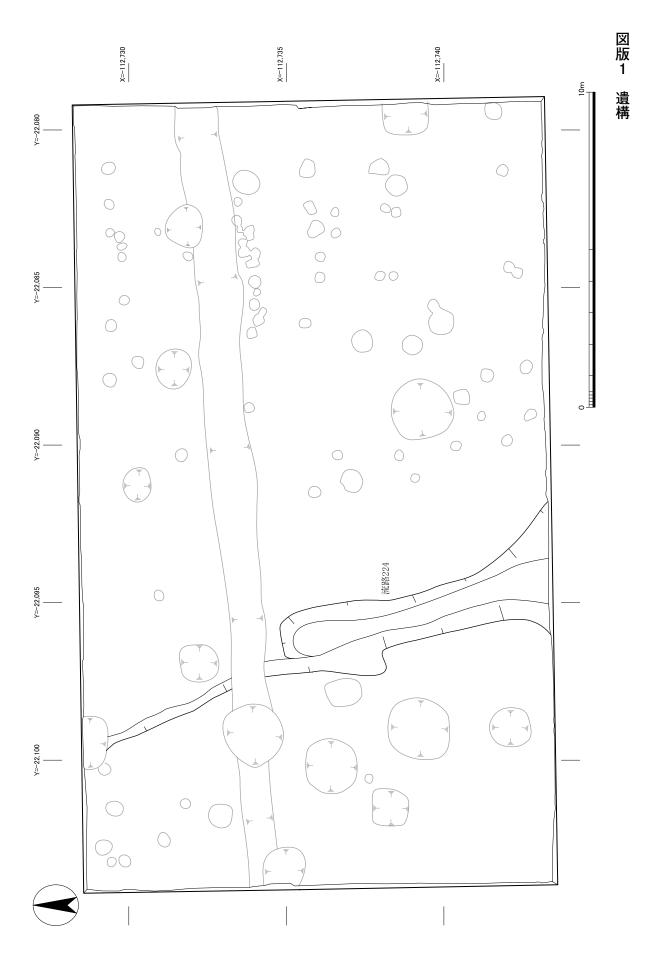
付表1 土器観察表

番号	器種	器形	遺構	H 4₹	法量	ウク	胎土色調	胎土	焼成	残存率 (%)	備考
1	土師器		流路224	口径 15.6	器高 (2.7)	底径	10YR8/2灰白 密(φ2.0mm以下の長石、石英、 チャートを含む)		良	25	
2	緑釉陶器	椀	流路224	12.6	(2.8)	-	軸)5VP5/2 広オリーブ 密(*0.5mm以下の長五 五萬		良	10	
3	土師器	Ш	自然堆積層	7.5	(1.0)	_	加)3 Y G b / 1 / M		良	40	
4	土師器		自然堆積層	8.4	1.5		10YR7/2にぶい黄橙	密(φ0.5mm以下の長石、石英、 チャート、赤色粒子を含む)	良	60	
5	土師器		自然堆積層	8.8	1.7	_	10YR7/2にぶい黄橙	密(φ0.5mm以下の石英、チャート を含む)	良	60	
6	土師器		自然堆積層	8.5	1.7		10YR7/3にぶい黄橙	密(φ1.0mm以下の長石、石英、 チャートを含む)	良	60	
7	土師器		自然堆積層	8.9	1.7	_	10YR7/2にぶい黄橙	密(φ0.5mm以下の長石、雲母を 含む)	良	90	
8	土師器		自然堆積層	13.1	2.6	_	10YR7/2にぶい黄橙	密(φ0.5mm以下の長石、石英、 チャート、雲母、赤色粒子を含む)	良	口縁部 10	
9	瓦器		自然堆積層	8.3	1.5		N3/0暗灰	密(φ0.5mm以下の長石、石英を 含む)	良	100	
10	白色土器		自然堆積層	6.8	2.3	3.2	10YR8/3浅黄橙	密(φ1.5mm以下の長石、石英、 チャートを含む)	良	60	
11	青磁	水注	自然堆積層	_	(3.1)		釉)7.5Y7/2灰自 胎)N7/0灰白	密(φ0.5mm以下のチャートを含む)	良	水注 80	輸入
12	白磁	水注または四耳壷	自然堆積層	11.2	(4.1)	_	釉)7.5Y7/2灰白 胎)N8/0灰白	密(φ0.5mm以下のチャートを含む)		口縁部 25	輸入
13	瓦器	羽釜	自然堆積層	17.6	(9.8)	_	N3/0暗灰			口縁部 10	
14	土師器		溝240	8.6	1.5		7.5YR7/3にぶい橙	- 5YR7/3にぶい橙 密(φ3.0mm以下の長石、石英、 チャートを含む)		100	
15	土師器	Ш	溝240	8.9	1.6	-	7.5YR7/4にぶい橙		良	100	
16	土師器	Ш.	溝240	9.2	1.7		10YR7/3にぶい黄橙		良	100	
17	土師器	Ш	溝240	13.3	2.3	-	10YR8/3浅黄橙 密(φ2.0mm以下の長石、石英、 チャートを含む)		良	50	
18	土師器	Ш	溝240	14.0	2.9		10YR7/2にぶい黄橙	密(*10㎜以下の長石 石英		50	
19	土師器	Ш	溝240	13.6	3.5	-	10YR7/3にぶい黄橙	密(φ1.5mm以下の長石、石英、 チャート、雲母を含む)		100	
20	瓦器	Ш	溝240	8.6	1.8		N3/0暗灰	密(φ3.0mm以下の長石、石英、 チャートを含む)		35	
21	瓦器	椀	溝240	13.6	4.7	-	N3/0暗灰、N8/0灰白	密(φ0.5mm以下の長石、石英、 チャートを含む)		25	
22	白磁	椀	溝240	=	(3.1)	5.7	釉)2.5Y8/1灰白 胎)10YR8/2灰白	南)2.5Y8/1灰白 密(φ0.5mm以下の長石、石英、 _自		底部 100	輸入
23	青磁	Ш	溝240	9.8	2.6	2.8	釉)2.5Y5/4黄褐 密(φ3.0mm以下の長石、石英、 胎)5Y6/1灰 チャートを含む) 良		75	輸入	
24	土師器	Ш	土坑282	8.3	1.7	-	10YR7/3にぶい黄橙 密(φ1.5mm以下の長石、石英、チャートを含む) 良		100		
25	土師器	Ш	土坑282	8.6	1.6	-	10YR7/4にぶい黄橙 密(φ2.5mm以下の長石、石英、 チャート、雲母を含む)		良	85	
26	土師器		土坑282	8.9	1.5	_	7.5YR7/4にぶい橙 密(φ3.0mm以下の長石、石英、 チャート、赤色粒子、雲母を含む) 良		100		
27	土師器	Ш	土坑282	11.1	3.3	_	10YR8/2灰白	密(φ1.0mm以下の長石、石英、 チャートを含む)	良	50	
28	白磁	壷	建物3	-	頸部~ 体部(9.4) 体部~ 底部(6.2)	5.6	釉)10Y7/1灰白 胎)N8/0灰白	密	良	25	輸入 高台に墨書

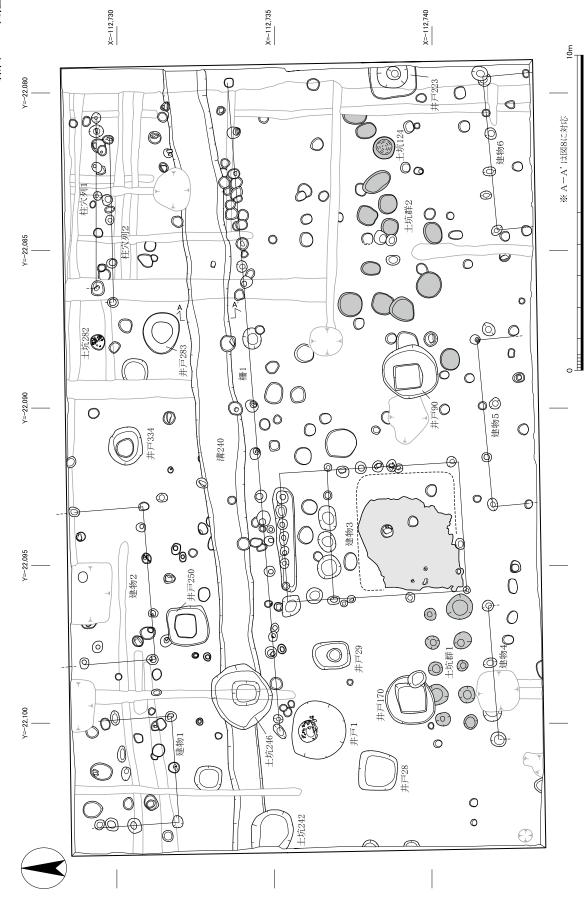
番号 器	器種	器形	遺構	法量			胎土色調	胎土	焼成	残存率	備考
田ケ	カロイ里	カオバシ	退伸	口径	器高	底径	加工巴唧	//H	汚形以	(%)	1佣-5
29	土師器	Ш	井戸223	8.7	1.3	-	7.5YR6/4にぶい橙 密(φ1.5mm以下の赤色粒子を含む)		良	90	
30	土師器	111	井戸223	13.3	1.9	=	10YR7/3にぶい黄橙 密(φ1.0mm以下の長石、石英、 雲母を含む)		良	15	
31	青磁	皿または 椀	井戸223	15.6	(3.8)	-	釉)10Y6/2オリーブ灰 胎)7.5Y7/1灰白		良	口縁部	輸入
32	青磁	Ш	井戸223	10.4	4.7	2.6	釉)10GY8/1明緑灰 胎)N7/0灰白	密(ϕ 0.5mm以下の長石、チャートを含む)	良	60	輸入
33	灰釉陶器	壷	井戸246	13.0	(13.9)	-	2.5Y8/2灰白 密(φ1.0mm以下の長石、石英、 チャートを含む)		良	35	輸入
34	須恵器	鉢	井戸223	30.8	(11.3)	-	10YR5/2灰黄褐	密(φ3.0mm以下の長石、石英、 黒色粒子を含む)	良	口縁部	
35	土師器	Ш	整地層	8.2	1.7	-	7.5YR7/3にぶい橙	密(φ3.0mm以下の長石、石英、 チャートを含む)	良	100	
36	土師器		整地層	8.4	1.6	-	10YR7/3にぶい黄橙	密(φ1.0mm以下の長石、石英、 チャート、雲母を含む)	良	80	
37	土師器	Ш	整地層	8.5	1.7	-	7.5YR7/4にぶい橙	密(φ1.0mm以下の長石、石英、 チャート、雲母を含む)	良	80	
38	土師器	Ш	整地層	8.5	1.0	=	7.5YR7/3にぶい橙	密(φ2.0mm以下の長石、石英、 チャートを含む)	良	95	
39	土師器	Ш	整地層	8.6	1.6	-	7.5YR7/4にぶい橙	密(φ1.0mm以下の長石、石英、 チャートを含む)	良	95	
40	土師器		整地層	9.2	1.2	-	7.5YR7/4にぶい橙	密(φ1.0mm以下の長石、石英、 チャート、雲母を含む)	良	95	
41	土師器	Ш	整地層	9.2	1.8	-	10YR8/2灰白	密(ϕ 1.0mm以下の長石、石英、 チャートを含む)		75	
42	土師器	Ш	整地層	12.9	2.8	-	10YR7/3にぶい黄橙 密(φ1.0mm以下の長石、石英、 チャートを含む)		良	95	
43	土師器	Ш	整地層	13.1	2.3	-	7.5YR7/3にぶい橙	密(φ1.0mm以下の長石、石英、 チャート、雲母を含む)		35	
44	土師器	Ш	整地層	13.1	2.5	-	10YR8/3浅黄橙	密(φ1.0mm以下の長石、石英、 チャートを含む)	良	35	
45	土師器	Ш	整地層	13.2	2.6	-	10YR7/2にぶい黄橙	密(φ1.0mm以下の長石、石英、 チャート、雲母を含む)	良	50	
46	土師器	Ш	整地層	13.6	2.3	=	7.5YR7/3にぶい橙	密(φ1.0mm以下の長石、石英、 チャートを含む)	良	50	
47	土師器	Ш	整地層	14.9	2.3	-	7.5YR8/4浅黄橙	密(φ3.0mm以下の長石、石英、 チャート、赤色粒子を含む)		35	
48	白色土器	蓋	整地層	8.2	2.1	=	10YR8/2灰白	密(φ1.0mm以下の長石、石英、 チャートを含む) 良 1		100	
49	土師器	鉢	整地層	-	(7.6)	4.3	100/12/13/13/13/13/13/13/13/13/13/13/13/13/13/		底部 100		
50	瓦器	椀	整地層	13.9	(4.2)	-	N3/0暗灰 密(φ1.0mm以下の長石、石英、 チャートを含む) 良 2		20		
51	須恵器	鉢	整地層	29.0	(12.1)	-	N7/0灰白 密(φ3.0mm以下の長石、石英、 黒色粒子を含む) 良 1		15		
52	土師器	-	建物2 柱穴258	タテ (4.7)	ヨコ (4.3)	厚さ 0.4	10YR8/3浅黄橙	密(φ1.0mm以下の長石、石英、 チャートを含む)	良	破片	両面に墨書
53	白磁	Ш	自然堆積層	10.6	2.5	3.9	釉)5Y7/2灰白 胎)N8/0灰白	密	良	25	輸入 高台に墨書

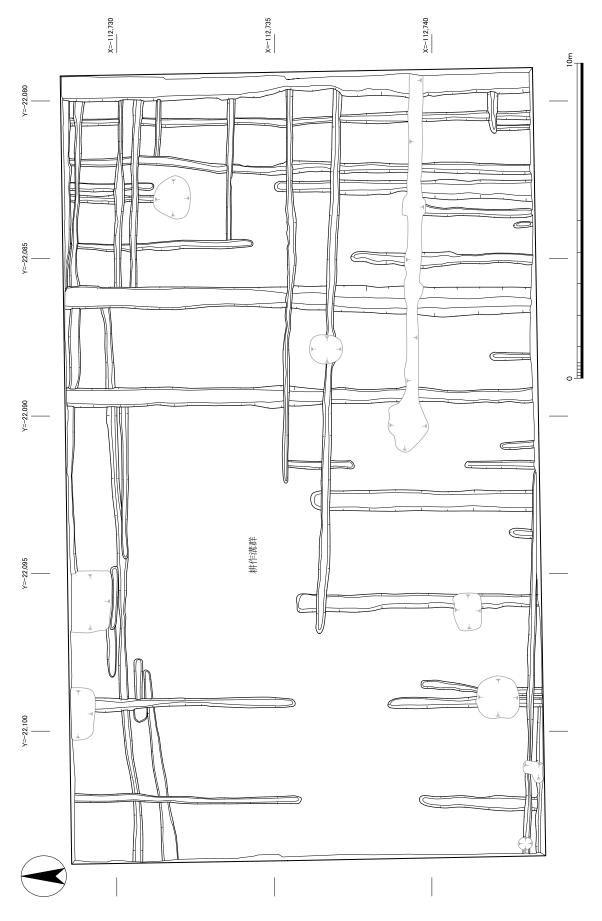
※()は残存値、単位はcm

図 版

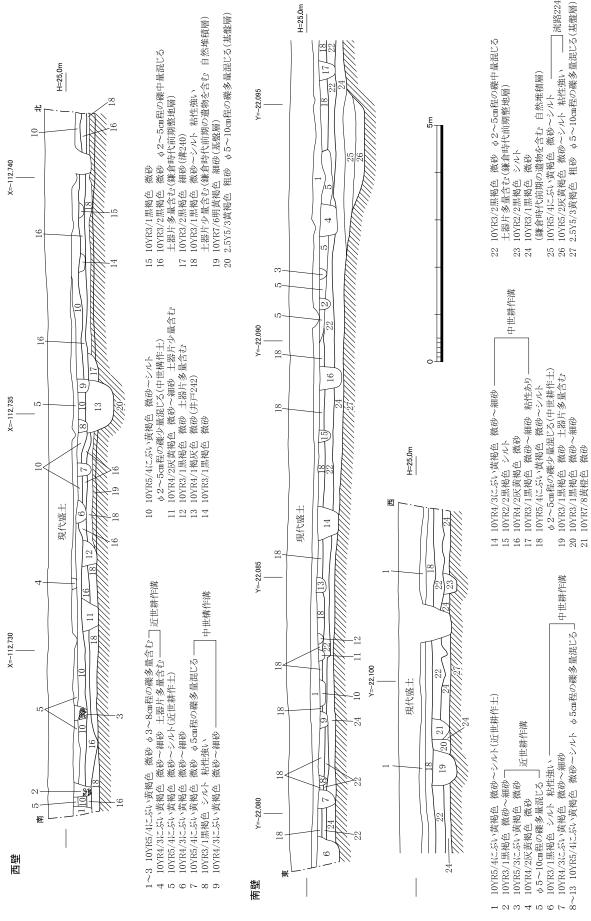


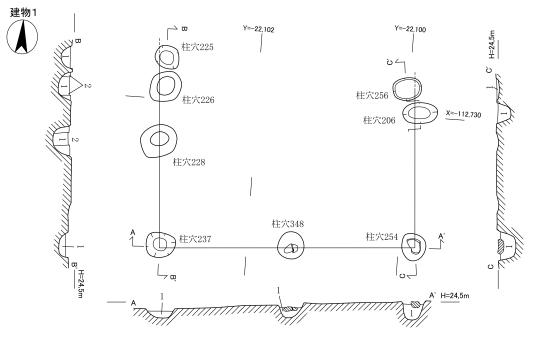
第3面平面図 (1:120)





第1面平面図 (1:120)





柱穴225

1 10YR3/2黒褐色 細砂 柱穴226

1 10YR3/4暗褐色 微砂 2 10YR3/2黒褐色 細砂 柱穴228

1 10YR3/4暗褐色 微砂 2 2.5Y4/2灰黄褐色 細砂

柱穴237

1 5Y3/1オリーブ黒色 細砂

柱穴348

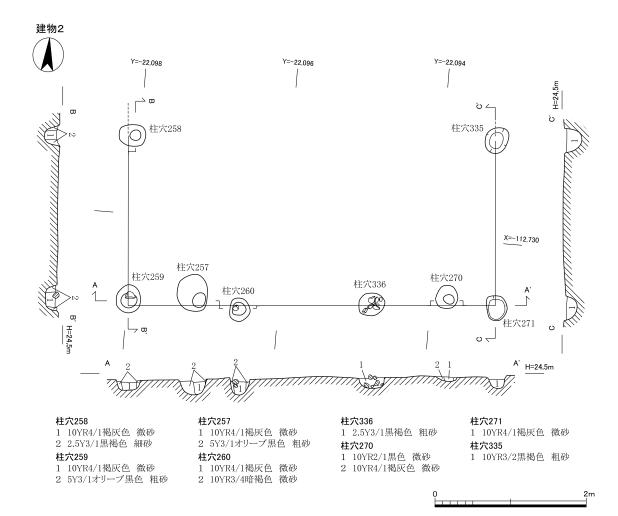
1 2.5Y3/1黒褐色 粗砂 柱穴254

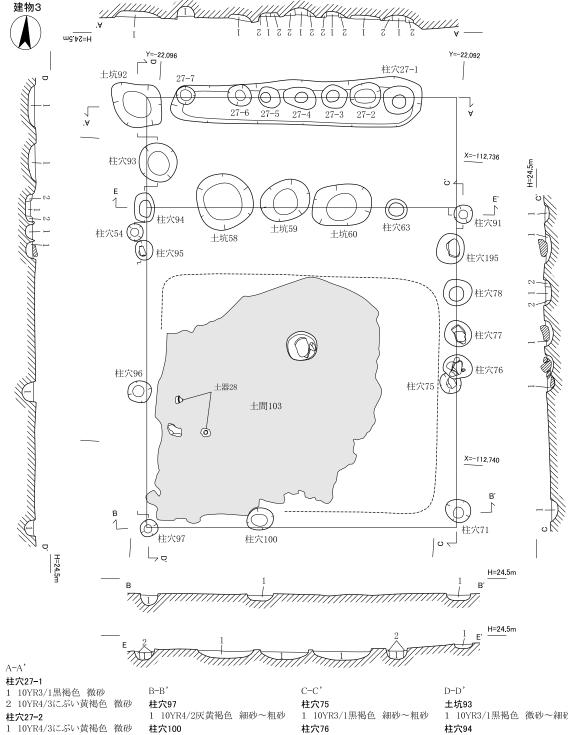
1 5Y3/1オリーブ黒色 粗砂

柱穴206 1 10YR3/1黒褐色 細砂

柱穴256

1 5Y3/1オリーブ黒色 粗砂





柱穴27-3

1 10YR3/1黒褐色 微砂

2 10YR4/3にぶい黄褐色 微砂 柱穴27-4

1 10YR3/1黒褐色 微砂 2 10YR4/3にぶい黄褐色 微砂

柱穴27-5

1 10YR3/1黒褐色 微砂

2 10YR4/3にぶい黄褐色 微砂 柱穴27-6

1 10YR4/3にぶい黄褐色 微砂 柱穴27-7

1 10YR4/3にぶい黄褐色 微砂

1 10YR3/1黒褐色 微砂~細砂

1 10YR3/1黒褐色 細砂~粗砂 柱穴71

1 10YR2/2黒褐色 細砂

Е-Е'

土坑58

1 10YR3/1黒褐色 細砂~粗砂 土坑59

1 10YR3/1黒褐色 細砂〜粗砂 柱穴60

1 10YR3/1黒褐色 細砂~粗砂

1 10YR2/2黒褐色 微砂

2 10YR3/1黒褐色 細砂~粗砂

1 10YR2/2黒褐色 細砂~粗砂 柱穴77

1 10YR3/1黒褐色 細砂~粗砂 柱穴78 1 10YR3/2黒褐色 微砂

2 10YR3/1黒褐色 細砂~粗砂 柱穴195

1 10YR3/1黒褐色 微砂

柱穴91

1 10YR3/1黒褐色 微砂~細砂

1 10YR3/1黒褐色 微砂~細砂

1 10YR3/1黒褐色 微砂

2 10YR2/2黒褐色 微砂

柱穴54

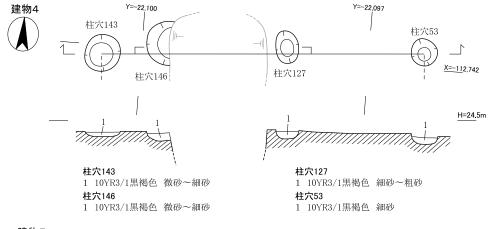
1 10YR3/1黒褐色 微砂~細砂 柱穴95

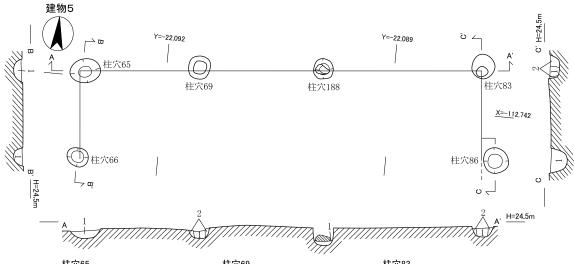
1 10YR3/1黒褐色 微砂~細砂 柱穴96

1 10YR3/1黒褐色 微砂~細砂

■ 土間103(10YR4/3にぶい黄褐色 微砂)







柱穴65

1 10YR4/1褐灰色 細砂

柱穴66

1 10YR3/2黒褐色 細砂~粗砂

柱穴69

1 10YR3/1黒褐色 細砂~粗砂

柱穴188

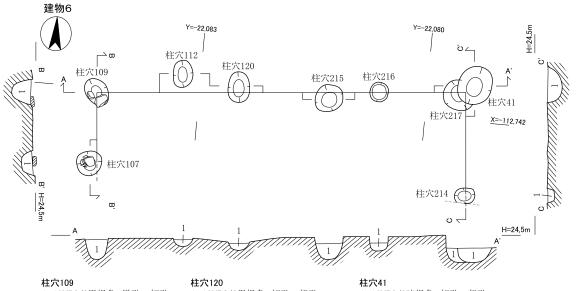
- 1 10YR3/2黒褐色 細砂~粗砂 2 10YR3/1黒褐色 細砂~粗砂

柱穴83

- 1 10YR3/2黒褐色 微砂 2 10YR3/1黒褐色 細砂~粗砂

柱穴86

1 10YR3/2黒褐色 細砂~粗砂



1 10YR2/2黒褐色 微砂~細砂 柱穴107

1 10YR3/1黒褐色 細砂 柱穴112

1 10YR2/1黒褐色 微砂~細砂

1 10YR2/2黒褐色 細砂~粗砂 柱穴215

1 10YR3/1黒褐色 細砂~粗砂 柱穴216

1 10YR3/1黒褐色 細砂~粗砂

1 10YR3/3暗褐色 細砂~粗砂

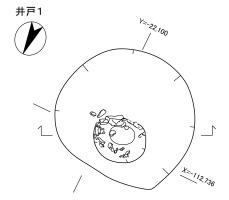
柱穴217

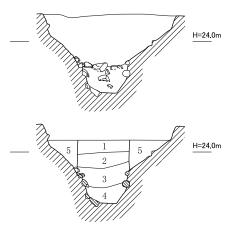
1 10YR3/1黒褐色 細砂~粗砂

柱穴214

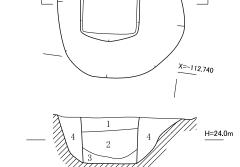
1 10YR3/2黒褐色 粗砂

柵1実測図(1:50)





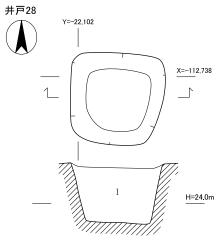
- 1 10YR3/1褐灰色 微砂 4 2 10YR4/2灰黄褐色 細砂 5 φ5cm程の礫含む 3 10YR2/1黒色 微砂~シルト 粘性強い φ10cm程の礫含む
 - 4 2.5Y4/1黄灰色 粗砂 5 10YR4/1褐灰色 微砂
- Y=-22,088 井戸90



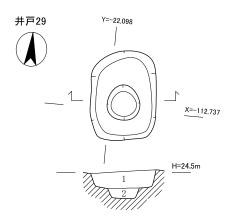
- 10YR4/2灰黄褐色 微砂〜細砂 10YR4/3にぶい黄褐色 微砂〜シルト 粘性あり 5B4/1暗青灰色 微砂〜シルト 粘性強い 10YR4/1褐灰色 粗砂 φ3〜5cm程の礫含む



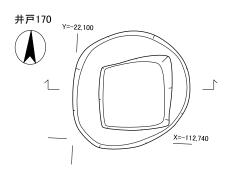
井戸1・28・29・90・170 実測図(1:50)

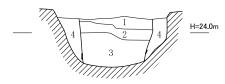


1 10YR3/3暗褐色 粗砂 φ5cm程の礫中量含む



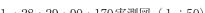
- 1 10YR4/1褐灰色 微砂 粘性強い 2 10YR4/1褐灰色 粗砂

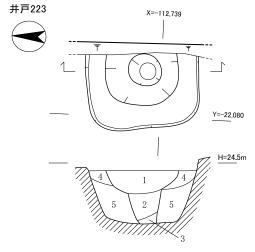




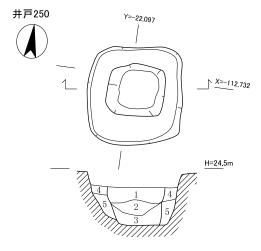
- 1 10YR4/1褐灰色 細砂 やや粘性あり 2 10YR4/1褐灰色 シルト 粘性強い 3 10YR4/2灰黄褐色 細砂~シルト

- +10YR4/1掲灰色 シルトプロック混じる 4 10YR4/1掲灰色 シルト 粘性強い +10YR3/3暗褐色 細砂〜粗砂

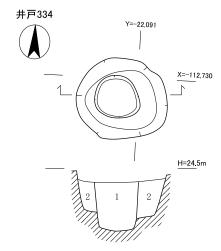




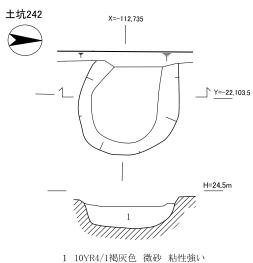
- 1 10YR3/1黒褐色 細砂 2 10YR4/1黄灰色 細砂
- 3 10YR4/2明灰黄色 シルト
- 4 10YR5/1黄灰色 シルト
- 5 10YR4/1褐灰色 粗砂
- 井戸283 Y=-22,088 X=-112,731.5 H=24.5m
- 1 2.5Y2/1黒色 細砂〜粗砂 粘性強い 2 2.5Y3/1黒褐色 粗砂〜シルト+7.5Y5/8明褐色 細砂 3 10YR3/2黒褐色 細砂〜粗砂 φ3〜5cm程の礫含む



- 1 10YR3/2黒褐色 細砂~微砂+10YR5/4にぶい黄褐色 微砂 プロック混じる 10YR4/3にぶい黄褐色 細砂+10YR3/1黒褐色 シルトブロック混じる
- 3 10YR4/2灰黄褐色 細砂~シルト
- 4 10YR3/3暗褐色 細砂~シルト(土器片含む)
- 5 10YR3/2黒褐色 細砂+10YR3/1黒褐色 シルトブロック混じる



- 1 5YR2/2黒褐色 細砂〜粗砂 木片混じる 2 7.5YR3/1黒褐色 粗砂+7.5YR4/6褐色 シルトブロック混じる φ10cm程の礫多量含む



1 10YR4/1褐灰色 微砂 粘性強い



- Y=-22.099 土坑246 _____X=-112,734 H=24.5m
 - 1 10YR3/1黒褐色 微砂 粘性強い+10YR5/1褐灰色 微砂 ブロック混じる
 - 2 10YR4/1褐灰色 微砂



1 1区第3面全景(東から)



2 2区第3面全景(東から)





1区流路224(北から)



2 2区流路224 (北西から)



1 1区第2面全景(東から)



2 2区第2面全景(東から)





1 建物1・2 (東から)

2 建物3北側布掘り(西から)



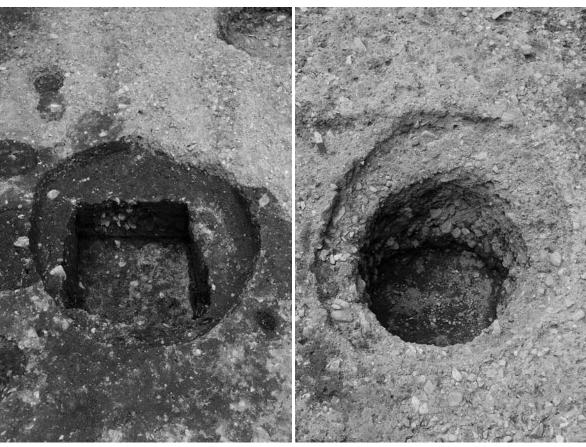
3 建物3 (南から)





1 柱穴列1・2 (西から)

2 井戸90 (南から)



3 井戸170 (東から)

4 井戸283 (南から)

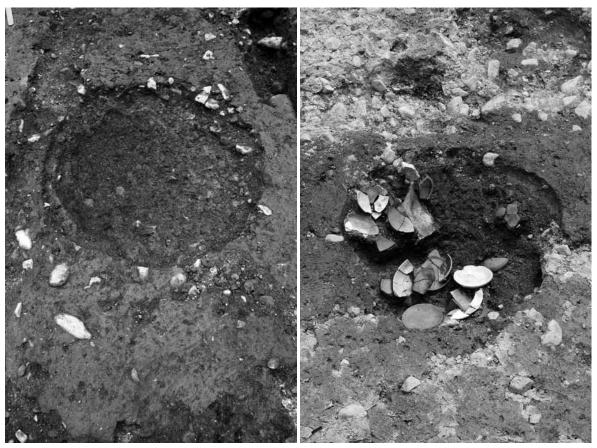


1 溝240 (北西から)

2 土坑群1 (東から)



3 土坑群2 (北から)



1 土坑124 (東から)

2 土坑282遺物出土状況(北から)



3 1区第1面全景(東から)

出土遺物

報告書抄録

ふりがな	へいあ.	んきょう	さきょう	うくじょうる	 さんぼうは	 っちょうあ	と・からすま	 ちょういせ	き				
書 名	平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡												
シリーズ名		京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告											
シリーズ番号	202	2020-7											
編著者名	岡田麻	岡田麻衣子											
編集機関		四											
所 在 地		京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1											
発行所		京都市上京区今田川通大呂東入元伊佐町 265 番地の1 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所											
発行年月日		21年4月)								
ふりがな		が な		ード	<i>u</i> , , ,	1.6							
所収遺跡名	所 右		市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因				
へいあんきょうあと 平安京跡 からすまちょういせき 烏丸町遺跡	ままりとしみなみく 京都市南区 OがLくじょうむろまち 東九条室町 47-1、47-5、 47-6		26100	1 759	34度 59分 01秒	135度 45分 29秒	2020年8月 21日~2020 年10月26日	375 m²	建物建築 工事				
所収遺跡名	種別	主な	時代	主な	遺構	主	な遺物	特記	事項				
平安京跡	都城跡	古墳時代				須恵器		鎌倉時代前半の西 四行北五門と北六 門の境界を踏襲し た溝や柵、町屋型 建物の前身となる					
烏丸町遺跡	集落跡	平安時代中期		流路		土師器、緑釉陶器							
	鎌倉時代		代前半 建物、柱 井戸、溝 土坑群		穴列、柵、 、土坑、	土師器、須恵器、白色 土器、瓦器、輸入陶磁 器、瓦、石製品		建物と井戸群を検 出した。					
		鎌倉時以降	代後半	耕作溝群									

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2020-7 平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡

発行日 2021年4月30日

編 集 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住 所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1

 \mp 602 - 8435 Tel 075 - 415 - 0521 http://www.kyoto-arc.or.jp/

印 刷 三星商事印刷株式会社

住 所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地

 $\mp 604 - 0093$ Tel 075 - 256 - 0961